

平成19年度
長期研修研究報告

**実感を伴う生きた知識を身に付け、
行動化への意欲と態度の育成を目指した保健学習**

- セルフエスティームを大切にした学習を通して -



神奈川県立体育センター
中学校長期研修員
大和市立光丘中学校 山内 辰徳

<目 次>

【1】 研究を進めるにあたって

- 1 研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 4 研究の方法と内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 5 研究の構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

【2】 研究の理論

- 1 喫煙、飲酒、薬物乱用に関する中学生の現状・・・・・・・・・・ 4
- 2 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の現状について・・・・・・・・・・ 4
- 3 保健学習と保健指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 4 保健学習の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 5 行動変容を目指す健康教育と保健学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 6 保健学習で求められているもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 7 知識に実感を伴わせるには・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 8 行動化への意欲・態度の育成へとつなげる理論・・・・・・・・・・ 10
- 9 セルフエスティーム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 10 保健学習における「喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」に関する
学習内容の整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

【3】 検証授業について

- 1 研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 2 検証の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 3 学習指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 4 授業の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 5 検証授業の結果と考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

【4】 研究のまとめ

- 1 研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
- 2 今後の展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
- 3 おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

- <引用・参考文献>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59

【 1 】 研究を進めるにあたって

1 研究主題

実感を伴う生きた知識を身に付け、
行動化への意欲と態度の育成を目指した保健学習
- セルフエスティームを大切にした学習を通して -

2 主題設定の理由

近年、中学生・高校生の喫煙・飲酒・薬物乱用が大きな社会問題となっており、「好奇心」、「おもしろさ」といった理由で、ごく普通の子供も遊び感覚で薬物に手を染めていく例もある。本来は入手不可能であるはずの多くの薬物も、インターネット上のいわゆる「裏サイト」等をはじめ、様々なルートから手に入れることが可能であり、中学生、高校生にとってより身近な存在となりつつある。また、「スピード」、「チョコ」、あるいは「やせ薬」など、その呼び方とイメージを変えることによって、薬物への抵抗感が薄れ、薬物乱用への壁が低くなってきている。たばこ、酒については、薬物よりもさらに身近な存在であり、中学生でも苦勞せずにそれらを手にすることができるため、喫煙・飲酒への壁はさらに低いと言える。

このような現状から学校教育では、教科や特別活動等、様々な機会ですべてとして喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育に取り組んでいる。その中で保健学習は、この乱用防止教育の中核として位置付けられ、健康・安全に関する理解を図りながら健康課題の解決方法を学び、適切な意志決定や行動選択ができる健康の保持増進のための実践力を育成していくことを目指している。「喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」の単元の中では、「心身に様々な影響を与え健康を損なう原因であることを理解させるとともに、そのような行為には個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それらに適切に対処する必要があることを理解させること」とを目的としている。¹⁾

しかし、平成 17 年度に神奈川県立体育センターが県内の小・中・高等学校の教員を対象に行った調査によると、この単元で意識されている指導上の課題は、「知識がなかなか定着しない」、「実生活に結び付けるのが難しい」等があげられていた。自分の授業を振り返ってみても、「教師による知識伝達型」で行っているが知識がなかなか定着せず、「実生活に結び付けるのが難しい」という課題があった。²⁾

個人の行動変容に関連する要因として、知識の習得は必要条件だが十分条件ではないことが認知され、態度の変容がより重要とされてきている。³⁾ 例えば、知識だけで薬物乱用を阻止できるとは言えず、知識だけでは好奇心に打ち勝てないことがあるのも現実がある。⁴⁾

保健学習では知識を習得させることだけでなく、得た知識を活用したり探求したりする学習をすることで、単なる覚える内容ではなく「使える知識」とするとともに、「たばこ等に手を出したくない」「手を出さない」といった行動化への意欲・態度の育成が求められる。そのためには、これらの学習と同時期に自分を大切にする心、いわゆるセルフエスティームの高揚を図ることが有効である。⁵⁾

そこで、本研究では保健学習の中で、プレゼンテーションソフトを活用した学習資料を工夫することで効果的に知識を身に付けさせ、薬物乱用経験者の手記や薬物標本に触れたり、参加型学習を導入したりすることによってその知識に実感を伴わせ自分のこととして捉えさせる、言わば「生きた知識」とし、さらに、セルフエスティームを大切にする学習を授業の中に取り入れることにより、行動化への意欲・態度の育成につながる保健学習が展開できると考え、本主題を設定した。

3 研究の仮説

プレゼンテーションソフトの活用により、効果的に知識を身に付けさせ、薬物標本・薬物乱用経験者の手記の使用や参加型学習の導入により知識に実感を伴わせ、セルフエスティームを大切にする学習を行うことで、行動化への意欲と態度の育成につなげることができる。

4 研究の内容と方法

(1) 本研究を進めるにあたって、理論的裏付けを文献・資料をもとに行う

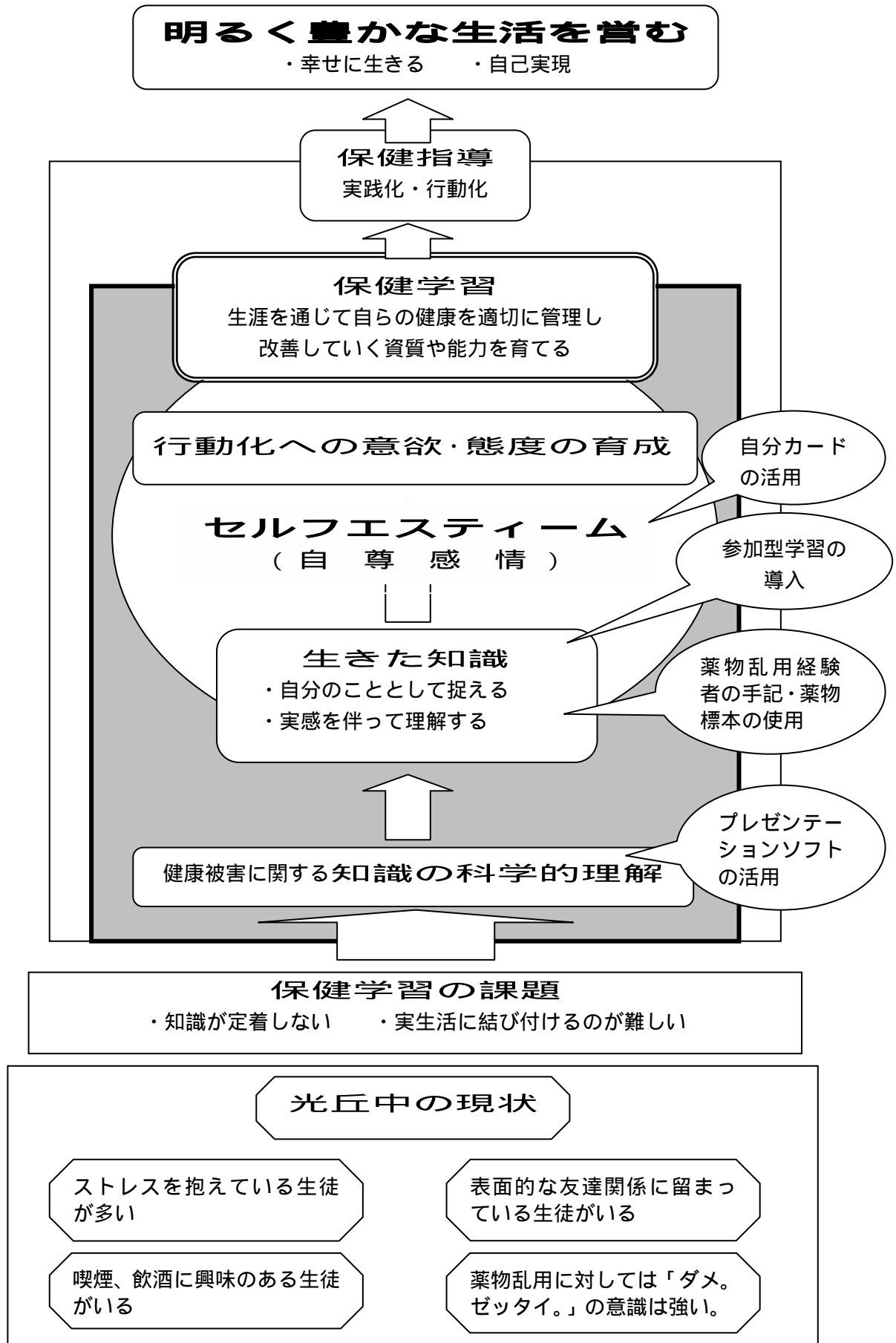
- ア 喫煙、飲酒、薬物乱用に関する中学生の現状
- イ 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の現状について
- ウ 保健学習と保健指導
- エ 保健学習の位置付け
- オ 行動変容を目指す健康教育と保健学習
- カ 保健学習で求められているもの
- キ 知識に実感を伴わせるには
- ク 行動化への意欲・態度の育成へとつなげる理論
- ケ セルフエスティーム
- コ 保健学習における「喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」に関する学習内容の整理

(2) 理論研究をもとに学習計画を立て授業を実践し、仮説の有効性を検証する

- ア 単元学習指導計画立案
- イ 実態調査
- ウ 授業実践
- エ 結果の分析

(3) 以上の理論研究と授業実践の研究をもとに研究のまとめを行う

5 研究の構想図



【 2 】 理論の研究

1 喫煙、飲酒、薬物乱用に関する中学生の現状

中学生での喫煙、飲酒、薬物乱用経験は、2006年の全国調査（表2-1）によると、大麻・覚せい剤の乱用は0.3%～0.5%であり、喫煙は8.4%～11.5%、飲酒については49.4%～51.1%にも上っている。動機については、喫煙は好奇心や興味（38%）、友人からの勧め（23%）が多く、薬物乱用では誘われて（55%）、好奇心（43%）が代表的なものとなっている。一方、健康への害についての認識は、喫煙は77%、飲酒では27%である。飲酒については、56%の生徒があまり害はないと捉えていることから、正しい知識を定着させる必要があると同時に、たばこ、酒、薬物に対して絶対に手を出さないという強い意志と態度を培うことが大切である。

本校では同様の内容（喫煙・飲酒・薬物乱用経験）の調査はできなかったが、「やってみようと思ったことがある」という表現に変えて調査を行った。（7月に行った本校3年生を対象としたアンケート調査）その結果、薬物については0%であったが、喫煙については6%、飲酒については41%の生徒がやってみようと思ったことがあると答えている。（表2-2）

表2-1 全国中学生調査（和田清ら 2006年）

	喫煙	飲酒	大麻乱用	覚せい剤乱用
男子	11.5%	51.5%	0.5%	0.5%
女子	8.4%	49.9%	0.4%	0.3%

表2-2 光丘中学校の実態（喫煙・飲酒・薬物乱用についての意識調査）

	喫煙	飲酒	薬物乱用
やってみようと思ったことがある	6%	41%	0%
害があると思う	91%	53%	91%

2 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の現状について

未成年者の喫煙や飲酒は法律で禁止されているだけでなく、青少年の心身の健康に及ぼす影響が大きく、シンナー等の薬物の乱用は、年齢にかかわらず法律で禁止されている。これは心身の健康のみならず人格の形成にも重大な影響を与え、加えて社会に及ぼす影響が大きいためであるが、青少年によるこれらの行為について、問題を抱えている学校は少なくない。

喫煙、飲酒、薬物乱用防止についての指導は、これらの行為を行った生徒に対して、法律に抵触するとの観点からの指導も必要であるが、健康の保持増進の観点から、一人ひとりが喫煙、飲酒、薬物乱用と健康との関わりについて早い時期から認識し、このような行為をしないという態度を身に付けるようにすることが大切である。

このような現状を踏まえ、昭和62年の臨時教育審議会第三次答申において、「喫煙、飲酒、薬物乱用（麻薬、覚せい剤、シンナー等）の問題についても重視すべきである」と指摘している。さらに、「これらに関する指導は、従来ともすれば非行対策の観点から捉えられがちであったが、今後は、関係機関がその防止に積極的に取り組むだけでなく、健康教育という観点から科学的な心身の知識について理解させるとともに、自分自身の人生やその基盤となる健康についての認識を深めさせるよう、教育・指導の改善に取り組む必要がある」としている。⁶⁾

学校教育で取り組む喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導は、教科、道徳、特別活動の各場面において行うことができる。また、生徒指導や教育相談等、機会を捉えた指導も行っている。（表2-3）

本校では、学校保健委員会を設置し（学校長・教頭・養護教諭・分掌担当職員・学校医・学校歯科医・学校薬剤師・PTA代表により構成）1年次に禁煙教育、2・3年次に薬物乱用防止教育の講演会を開催している。（表2-4）本研究を通して、より効果的な喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の計画を検討していく必要がある。

表2-4 光丘中学校の喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育

	前 期	後 期
保健学習		10月：3年生「喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」
保健指導	7月：1年生保健講話（喫煙防止）	2月：2・3年生保健講話（薬物乱用防止）
学級指導	随 時	随 時

3 保健学習と保健指導

学校は学校保健法に基づいて、児童・生徒の健康を保持増進し、心身ともに健康な人間の育成を図るという教育目標を達成させる目的で学校保健活動に取り組まなければならないとされている⁷⁾。学校保健は保健管理と保健教育の2領域で構成されており、後者は保健の一般的・基本的概念の習得、身近な健康問題の判断・処理など、健康に関する実践的態度や能力を育てることを目的としており、保健学習（health instruction or health teaching）と保健指導（health guidance）の2つの側面を持っている。（図2-1）保健学習は、健康の保持増進のために必要なことがらを科学的、系統的に理解するもので、保健に関する知識や技能を習得する性格を持ち、保健指導は、日常生活における健康上の問題をより望ましいものに変えていく過程を指している。（表2-5）

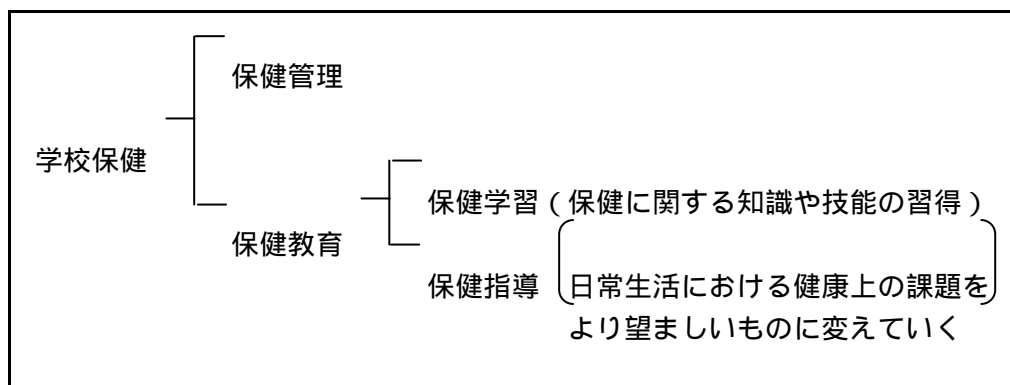


図2-1 保健学習と保健指導

表 2 - 5 保健学習と保健指導⁸⁾

	保健学習	保健指導
目標・特性	保健の科学的認識（判断・思考力）の発達 ・ 現在よりも、将来を見通した健康問題に関する知識の習得	具体的な問題に対処できる実践的能力の育成 ・ 将来よりも、当面する健康問題に対する習慣や態度の育成
内容	一般的・基本的な概念 学習指導要領の内容 ・ 保健の科学（理論） ・ 構造的（系統性・関連性） 時間数が限定されている。	当面の健康問題中心 指導の内容（例） ・ 日常的（習慣形成） ・ 臨機的（季節・行事） 内容や時間数は児童・生徒の実態や学校の教育方針によって、学校が定める。
教育課程における位置づけ	教科 ・ 体育（保健領域） ・ 保健体育（保健分野）（科目保健） 総合的な学習の時間	特別活動など ・ 学級活動 ・ 学校行事 ・ 児童会活動・生徒会活動
教育課程外における位置づけ		・ 個人指導、グループ指導
方法	計画的に指導する。	学校の教育活動の全体の中で、児童・生徒の実態に即し、継続的・効果的に実施する。
対象	学級集団	集団（学級・学年・全校・特定のグループ）または個人
担当生徒	保健体育科または保健担当教員（小学校は学級担任）、養護教諭（教育職員免許法一部改正、平成 10 年省令 28 号に基づく）	学級担任、養護教諭

（養護教諭のハンドブックより）

実際の指導の現場では、保健学習と保健指導のそれぞれにおいて求められる内容が混同して指導されている実態が指摘されていることから、保健学習は「学習指導要領」に示されているそれぞれの目標を踏まえて、各学校の実態に即した学習を行う必要があると同時に、学習内容として、保健分野の目標を踏まえて指導計画を立てることが必要となる。

4 保健学習の位置付け

学習指導要領の総則第 1 の 3 で、「学校における体育・健康に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、体力の向上及び健康の保持増進に関する指導については、保健体育科の時間はもとより、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うように努めることとする。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が養われるよう配慮しなければならない」と示して

いる。¹⁾

また、戸田は学校教育における保健学習の位置づけを図2 - 2のように表している。⁹⁾

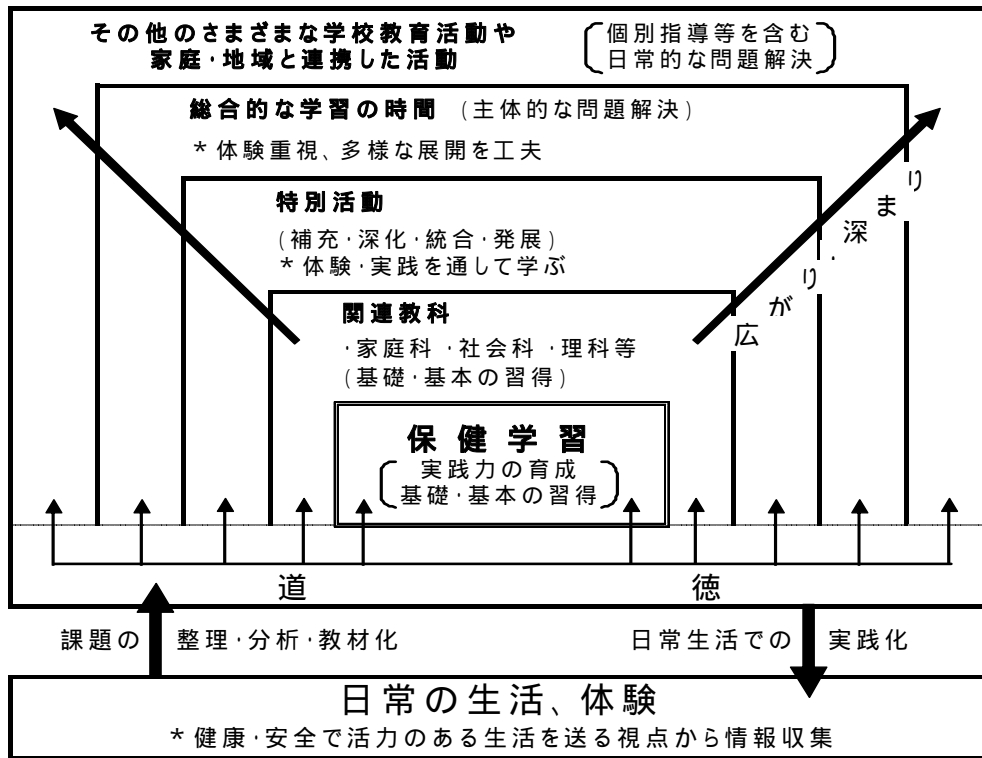


図2 - 2 学校健康教育のイメージ

この図から、保健学習では基礎・基本を習得し、他の教育課程及び教育活動において補充・深化していくことが必要であることがわかる。

学習指導要領総則の「体育・健康に関する指導」では、「生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送る基礎を培う」と示されている。特に、体づくり及び心身の健康に関する指導は、体育科・保健体育科はもとより、教育活動全体で行われることや、家庭や地域社会との連携を図って行われること、日常生活での実践を通して行われることが示されている。

また、体育科・保健体育科の目標では、調和のとれた人格形成を目指し、教科の特性から、「心と体を一体としてとらえ、明るく豊かで活力のある生活を営む態度の育成」を図ることが求められている。

そのため保健学習では、「生涯にわたる健康の保持増進のための基礎づくり」として、健康・安全に関する理解を図りながら健康課題の解決方法を学び、適切な意志決定や行動選択ができる健康の保持増進のための実践力を育成していくことが目指されている。

これらの内容から、保健学習の役割として、心身の健康の保持増進に関する指導において、「核」あるいは「基礎・基本」として、学校における健康教育の要をなすものと考えられる。保健学習の基本的な考え方として、具体的な学習教材を通して学習することによって、病気の予防や生活習慣の改善等につながる思考・判断や知識・理解、また結果として関心・意欲・態度といった学力の向上を図り、適切な意志決定、行動選択につながる実践力を育成していくことが求められている。

5 行動変容を目指す健康教育と保健学習

健康教育、栄養教育の主目的の1つは、対象生徒が望ましい方向に行動を変容し習慣化することとされる。個人の行動変容のためには、必要な知識の習得と理解、並びに望ましい態度の形成が必要とされる¹⁰⁾¹¹⁾。この関係は、K A Pモデル、K A Bモデル、すなわち知識(Knowledge)の習得が、態度(Attitudes)の変容をもたらし、結果として習慣(Practice)や行動(Behavior)が変容すると考える理論として示され、1950年代から広く健康教育に用いられてきた。しかしながら、知識の習得、理解が必ずしも行動変容に結び付かない現状が多く明らかにされるに伴い、態度の変容に焦点が当てられるようになった。態度とは、現実にとられる行動そのものではなく、その背後にあるもの、或いは仮定される反応の準備状態として表現されるもので、判断、信念などの認知的態度、好嫌い、心情などの感情的態度、接近・回避、習慣などの行動的態度、これら3つが均衡を保って体制化された均衡的態度がある¹⁰⁾。1970年代以降、社会心理学の知見を応用して、こうした態度の内部構造や保健行動との関連に関する研究が盛んとなり、ヘルス・ビリーフ・モデル(Becker, M. H.ら)、行動意思理論(Fishbein, M and Ajzen, I)といった社会心理学的モデルが生まれ、活用されるようになった¹²⁾。また、Bandura, Aの社会的学習理論を応用したセルフ・エフィカシー(自己効力)という態度の概念も、行動変容に直接的に関連する概念とされ、欧米では近年この測定方法に関する研究も盛んである。

以上のように、今日では個人の行動変容に関連する要因として、知識の習得は必要条件だが十分条件ではないことが認知され、態度の変容がより重要とされてきている。いずれにせよ、行動変容に関連する要因として、知識と態度の把握は不可欠であり、近年ヘルスプロモーションの企画のための理論モデルとして注目され、活用されているプリシード・プロシードモデル(Green, L. Wら)においても、行動変容の「準備要因」として知識、態度が位置付けられている。

行動変容を目指す健康教育の中核をなすと言われる保健学習で求められるものが、行動変容の準備要因を満たすところまでと捉えるのであれば、知識の定着だけでなく、態度化も目指すところに位置付くと考えられる。

6 保健学習で求められているもの

平成9年の保健体育審議会答申では、「生涯にわたる心身の健康に関する教育・学習の充実」の中でヘルスプロモーションの理念に基づいた健康の保持増進に関する教育が提案された。

これらを受けて、平成10年改訂の中学校学習指導要領では、保健分野の目標として「個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」と示されている。このことは、「健康・安全についての科学的な理解を通して、現在及び将来の生活において健康・安全の課題に直面した場合に、的確な思考・判断及び意志決定を行い、自らの健康の管理や生活行動及び環境の改善を適切に実践できるような資質や能力、即ち実践力を育成することを目指している」と説明されている。¹⁾

保健学習の基本的な考え方として、具体的な学習教材を通して学習することによって、病気の予防や生活習慣の改善等につながる思考・判断や知識・理解、また結果として関心・意欲・態度といった学力の向上を図り、適切な意志決定や行動選択につながる実践力を育成していくことが求められている。¹³⁾

実践力の中身について、戸田は「学習指導と評価の関わりから言い換えると、健康・安全への関心・意欲・態度、健康・安全についての思考・判断及び知識・理解の総体」即ち評価の観点の裏返しであると述べている。¹⁴⁾しかし渡邊は、「保健教育における実践力を考える(体育科教育2006年8月号)」の中で、「健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会(中央教育審議会)報告書では『意志決定や行動選択につなげる実践力』という言い方をしているが、学習指導要領では『的確な思考・判断及び意志決定を行い、…(中略)…実践できるような資

質や能力、即ち実践力』とあるように意志決定・行動選択を含む概念として示している」と述べ、さらに「実践力という言葉は人それぞれで解釈が違ってもいいが、これが実践力だということを明確に示さないと単純に活動することが実践力になる危険性がある」と指摘している。¹⁵⁾確かに実践力は有識者等によって捉え方が異なり、保健学習で目指すところを設定しにくい現状がある。

今関は、平成 19 年 5 月に行われた小・中学校各教科等担当指導主事連絡協議会の中で、教科の学習と道徳・特別活動の位置関係について図 2 - 3 のような考え方があることを示している。すなわち、保健学習で目指すところは、「知識」 - 「理解」 - 「利用」 - 「熟考」、そして態度化の入り口まで求めるという考え方である。ここでいう「利用」とは「応用」「適用」の意味であり、「熟考」とは「思考」「判断」の意味を含んでいる。また、「態度」「実践」は実践的態度、実践力、日常の対処行動として整理されている。¹⁶⁾

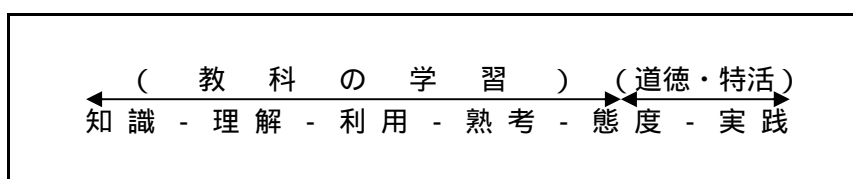


図 2 3 教科の学習と道徳・特別活動の位置関係¹⁶⁾

7 知識に実感を伴わせるには

行動変容を目指す健康教育との関わりで、保健の知識のあり方が現在活発に議論されている。

保健教育の立場から数見は、「知識というのは、本来『納得知』に通じる因果関係理解のことであるが、認識というのは、さらにその理解に深さや広さがともない、実感的・切実にわかる（自分の問題としてわかる）といった質的理解のことと考え、その思考過程における変化、すなわちそれまでの自分の経験や意識と、授業において提起された科学的な事実や法則が関係しあい、作用して、学習生徒の中に納得が生じたとき、意識が働き行動に向かわせるのだということであり、その一連の過程（行動の前段階まで）を『認識過程』としておさえ、授業はそれを作り出す作用」と述べている。¹⁷⁾すなわち、知識に実感を伴わせるとは、理解に深さや広がりを持たせ、「自分のこととして捉えていくこと」と捉えることができる。

8 行動化への意欲・態度の育成へとつなげる理論

「保健の科学的認識」と「実践的能力」ないしは「適応能力」を目標に捉えてきた小倉は「適応能力や実践的能力を認識に含めるならば、保健の主たる目標は『保健の科学的認識の発達』であると言ってよいと思われる」¹⁸⁾と示している。ただその場合でも「終極の目標として行動化への意欲・態度の育成を伴わせたい」と述べている。このように小倉は実践的能力を科学的認識の中に包括して捉えながらも、方向目標として意欲・態度の形成を置いている。

実践的能力とは「保健についての概念の形成や諸法則の理解のみでなく子ども達の考え方、考える力の発展を、主体的に子ども達が健康問題に立ち向かう姿勢であり、保健についての知識を生かして使いこなせる子ども達の能力」¹⁹⁾と捉えることができる。

このような観点から、数見は科学的認識と実践的能力とは一連の連続した関係にあり、子ども達を納得知に至らしめるような認識過程を重視した保健の授業を展開した後で、子ども達の感想文の語尾を分析すると、次の 4 つのカテゴリーに分類され、そこには多様なわかり方が存在するとしている。（表 2 - 6）

表2 - 6 わかり方のカテゴリー

(1) 『知的・論理的なわかり方』	
知的なわかり方	・「いろいろなことがわかりました」等
発見的で腑に落ちるわかり方	・「はじめは～だと思っていたのに、～だったのです」等
論理的なわかり方	・「どうして～なのかがわかった」等
(2) 『実感的で価値的なわかり方』	
感性的で実感の伴ったわかり方	・「～(からだ)はうまくできているなーと思った」等 ・「薬物は怖いなーと思った」* ・「意外と身近にあると思った」*等
価値観形成に結びつくわかり方	・「～の勉強はとても役に立つと思います」等
(3) 『さらなる追求心に発展するわかり方』	
新しい事実を知ったり、一定の理解が深まることによって別の疑問がでてきたり、知りたいことや追求したいことがさらに湧いてくるようなわかり方	・「もっとこのことについて調べてみたいです」 ・「人間のからだについてもっと知りたい」 ・「今日はもう少し保健の勉強をしてみたかった」 ・「～のことはわかったけど、～はどうなんですか」等
(4) 『実践への意欲がそそられるようなわかり方』	
実践への意志や意欲が育まれるようなわかり方	・「～のときは、絶対～したいと思います」 ・「絶対に～したくないと思います」* ・「断りたいと思います」* ・「注意したいと思います」* ・「～のときは気を付けたいと思います」 ・「～について家族で話したい」等

*喫煙・飲酒・薬物乱用に関する単元に当てはめて山内加筆

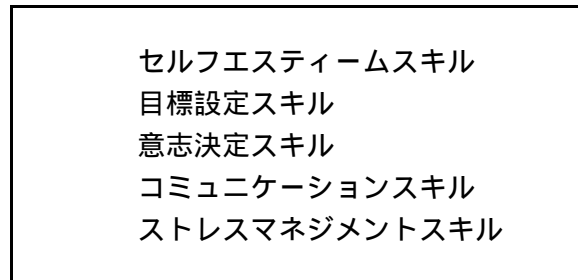
その上で数見は、「新たな知識を獲得したり、断片的な知識が論理的な思考に発展したり、誤った知識が科学的な知識によって、覆されたりしながら認識形成がなされ、しかもその認識獲得の過程が具体的でリアルなものであることによって、より実践的で価値的な意識に高まり、このことが実践的意志や意欲、態度を必然的に生み出すと考えられる」¹⁷⁾と述べている。

このように考えると、保健学習で目指している「わかる」ということは質的な深まりや広まりの過程で、自らの内面に健康への意志や展望を刻み込む過程でもあるということが出来る。すなわち、保健学習では、このような過程を経て、行動化への意欲・態度の育成につなげていくことが求められると考える。

9 セルフエスティーム

セルフエスティームとは、自尊感情、自己価値観などと訳されることもあり、人が自分自身に対して持つ自尊心や自己受容のことを指す。

WHOはヘルスポモーションを実現するための方策のひとつとして、個人的スキルの開発の具体的な取り組みであるライフスキル教育プログラムを提唱している。ライフスキル教育とは、日常生活で生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な心理的社会的能力を育成するとされている。ライフスキルは、次の5つの主領域に分けられている。



これらのスキルは、薬物乱用防止、思春期妊娠、知的能力の向上、いじめ防止、エイズ防止、暴力防止、自己信頼とセルフエスティーム（自己尊重）などの領域で有効性が示されている。

セルフエスティームが高いほど他のライフスキルも優れ、人生上の様々な問題を建設的かつ効果的に解決する可能性が大きいこと、また、日常の具体的問題を解決する経験を積み重ねることによって高まると考えられている。（図2 - 4）

セルフエスティームの取り扱いについては、道徳的内容とも捉えられるが、学習指導要領では、総則第1の2において、「学校教育における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間をはじめとして各教科、特別活動および総合的な学習の時間のそれぞれの特質に応じて適切な指導を行わなければならない」と示されており、¹⁾ 道徳的要素を各教科に取り入れて、教科、科目と道徳教育の両方の効果を高める工夫は重要であると思われる。しかし、教科として教えるべき内容と道徳として教えるべき内容をきちんと整理し、混同して評価することのないよう配慮する必要もあると思われる。



図2 - 4 5つのライフスキルの関係（JKYB研究会、2000より）

10 保健学習における喫煙・飲酒・薬物乱用に関する学習内容の整理

小学校・中学校・高等学校の内容は、それぞれの校種で完結しているわけではなく、実践的理解(小) - 科学的理解(中) - 総合的理解(高)と、概念レベルが高度になりながらスパイラルに進んでいくので、小学校から高等学校までの学習内容とそのつながりを確認して学習の計画・実践を進めていく必要がある。

表2 - 7 保健学習における喫煙・飲酒・薬物乱用に関する学習内容

小学校6年生

(3) 病気の予防 ウ 生活行動がかかわって起こる病気の予防		
(イ) 喫煙については、せきが出たり心拍数が増えるなど呼吸や心臓のはたらきに負担をかけるなどのすぐに現れる影響や長い間続けると肺がんや心臓病にかかりやすくなるなどの影響があること。 受動喫煙により、周囲の人々の健康にも影響を及ぼすこと。	(ウ) 飲酒については、判断力が鈍る、呼吸や心臓が苦しくなることがあるなどのすぐに現れる影響や、長い間続けると肝臓などの病気の原因になるなどの影響があること。	(エ) 薬物乱用については、シンナーなどの有機溶剤を取り上げ、一回の乱用でも死に至ることがあり、乱用を続けると止められなくなり、心身の健康に深刻な影響を及ぼすこと。

中学校3年生

(4) 健康な生活と疾病の予防 ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康		
(ア) 喫煙と健康 たばこの煙の中には有害物質が含まれており、ニコチンには依存性があること。 喫煙するとその作用により、血圧の上昇や心拍数の増加による心臓への負担、酸素運搬能力の低下、のどの痛み、せき・たん・息切れの増加など様々な急性影響が現れること。 常習化により、肺がんなどの様々な病気を起こしやすくなること。 未成年の喫煙ではこれらの身体影響が強く現れ、身体に悪影響を及ぼすだけでなく、依存性のため長い年月にわたり連用することにより身体をむしばむことになること。	(イ) 飲酒と健康 酒の主成分はエチルアルコールであり、未成年からの飲酒は依存症になりやすいこと。 飲酒によりエチルアルコールが中枢神経の働きを低下させ、思考力や自制力を低下させたり運動障害が起こること。 急激に大量の飲酒をすると急性中毒を起こし意識障害や死に至ることもあること。	(ウ) 薬物乱用と健康 覚せい剤や大麻を取り上げ、摂取によって幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと。 薬物の連用により依存症状が現れ、中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起こること。 個人の心身の健全な発育や人格の形成を阻害するだけでなく、社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため、暴力、性的非行、犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあること。
喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為は、好奇心、なげやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、周囲の人々の影響や人間関係の中で生じる断りにくい心理、宣伝・広告や入手のし易さなどの社会環境などによって助長されることを知り、それらに適切に対処する必要があること。		

高等学校

(1) 現代社会と健康 イ 健康の保持増進と疾病の予防	
(イ) 喫煙、飲酒と健康 喫煙、飲酒による健康への影響について、疾病との関連、周囲の人々や胎児への影響、社会に及ぼす影響があること。 適切な意志決定と行動選択が必要であること。	(ウ) 医薬品の正しい使用、薬物乱用と健康 医薬品の有効性や副作用及びその正しい使用法 コカインなどの麻薬、覚せい剤など、薬物の乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響 薬物乱用を決して行わないことが必要であること。

【 3 】 検証授業

1 研究の仮説

プレゼンテーションソフトの活用により、効果的に知識を身に付けさせ、薬物標本・薬物乱用経験者の手記の使用や参加型学習の導入により知識に実感を伴わせ、セルフエスティームを大切にする学習を行うことで、行動化への意欲と態度の育成につなげることができる。

2 検証の方法

- (1) 期 間 平成 19 年 10 月 16 (火) ~ 11 月 13 日 (火)
- (2) 場 所 大和市立光丘中学校
- (3) 対 象 第 3 学年 2 組
- (4) 単元名 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 (5 時間扱い)
- (5) 方 法

ア 単元学習指導計画立案

イ 実態調査と分析

(ア) 事前アンケート 10月15(月)

(イ) 事後アンケート 11月16(金)

ウ 授業実践

エ 授業の様子を撮影したVTR・ワークシート・学習カード・感想文の分析

オ 結果の分析

表 3 - 1 検証の視点と方法

検証の視点	分析の観点	方 法
(2) 薬物乱用経験者の手記・薬物標本の使用、参加型学習の導入により、知識に実感を伴わせることができたか。	ア 画像(実写)を見せること・アニメーション効果を付けることが、知識を身に付けることに効果があったか。	(ア) 実写を見せた部分・アニメーション効果をつけた部分の知識理解度テストの正答率 (イ) 事後(授業)アンケートの記述 ・ 5段階評価の平均及び自由記述(理由)の内容 (ウ) 事前・事後アンケートの比較 ・ 害知識と害に対する認識
	イ 薬物標本の使用が、知識に実感を伴わせることに効果があったか。	(ア) 事後(授業)アンケートの記述 ・ 5段階評価の平均及び自由記述(理由)の内容 * 使用時の学習カードの記述 ・ 「怖い」「危ない」「悲惨」「身近」等の記述
	ウ プレインストーミング・カードによる分類が、薬物乱用等の要因について、実感を深める効果があったか。	(ア) 事後(授業)アンケートの記述 ・ 5段階評価の平均及び自由記述(理由)の内容 (イ) 付箋の記述内容 ・ 要因の気付きの種類と数 (ウ) プレインストーミング・カードによる分類を行っている際の、VTR映像 ・ 内容を話し合い、共有している行動 (エ) 使用時の学習カードの記述 ・ 要因に対して、実感がこもっている表現
(1) プレゼンテーションソフトの活用により、知識が効果的に身に付いたか。	ア 画像(実写)を見せること・アニメーション効果を付けることが、知識を身に付けることに効果があったか。	(ア) 実写を見せた部分・アニメーション効果をつけた部分の知識理解度テストの正答率 (イ) 事後(授業)アンケートの記述 ・ 5段階評価の平均及び自由記述(理由)の内容 (ウ) 事前・事後アンケートの比較 ・ 害知識と害に対する認識

<p>(3) セルフエスティームを大切にしたい学習により、行動化への意欲、態度の育成につなげることができたか。</p>	<p>ア 自分カードが、セルフエスティームを高めることに効果があったか。</p>	<p>(ア) 事後(授業)アンケートの記述 ・5段階評価の平均及び自由記述(理由)の内容 (イ) 事前・事後アンケートのセルフエスティームを図る項目の比較 (ウ) 使用時の学習カードの記述 ・セルフエスティームの高揚が見られたと思われる表現</p>
	<p>イ セルフエスティームを大切にしたい学習が、薬物乱用等を行わない意欲・態度の育成に効果があったか。</p>	<p>(ア) 4時間目・5時間目の学習カードの記述 ・行動化への意欲 ・薬物等に手を出さない理由に、自分を大切にする表現があるか ・薬物等に手を出さない理由に、親、友達を大切にする理由があるか (イ) 事前・事後アンケートの比較 ・行動化への意欲の変化 (ウ) 感想文の記述内容 ・薬物等に手を出さない理由に、自分を大切にする表現があるか ・薬物等に手を出さない理由に、親、友達を大切にする理由があるか</p>

* 薬物乱用経験者の手記と薬物標本について同時に質問したため、ここでは一つの項目として検証する。

3 学習指導計画

(1) 単元の目標

ア 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与えること、これらは個人の心理状態、人間関係、社会環境が影響することを踏まえ、適切に対処する必要があることについて、学習カードに記入したり、仲間と意見交換したりしようとしている。

(関心・意欲・態度)

イ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与えること、これらは個人の心理状態、人間関係、社会環境が影響することを踏まえ、適切に対処する必要があることについて、学習したことや仲間との意見交換をもとに整理し、自分の考えをまとめている。

(思考・判断)

ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与えること、これらは個人の心理状態、人間関係、社会環境が影響することを踏まえ、適切に対処する必要があることについて、言ったり、書き出したりすることができる。(知識・理解)

(2) 評価規準

ア 単元の評価規準(喫煙、飲酒、薬物乱用と健康)

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
<p>喫煙・飲酒・薬物乱用の心身への影響や社会的影響、喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけや助長する心理状態・社会環境への適切な対処について、学習カードに記入したり、仲間と意見交換したりしようとしている。</p>	<p>喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけや助長する心理状態・社会環境、薬物等に手を出さない生き方に必要な心の持ち方について、仲間との意見交換をもとに整理し、自分の考えをまとめている。</p>	<p>喫煙・飲酒・薬物乱用の心身への影響や社会的影響、喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけや助長する心理状態・社会環境への適切な対処、薬物等に手を染めない幸せな生き方をするためには自分自身を大切に思う気持ちが重要であることについて、言ったり、書き出したりしている。</p>

イ 学習活動における具体の評価規準（5段階）

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
A	<p>～仲間の発言やメモなども踏まえて記入しようとしている。</p> <p>～仲間に働きかけながら進んで取り組もうとしている。</p> <p>～仲間に働きかけながら進んで意見交換をしようとしている。</p>	<p>～適切に整理・分析している。</p> <p>～具体例を挙げて適切に当てはめている。</p> <p>～適切な具体例を挙げまとめている。</p>	<p>～具体例を挙げて説明している。</p>
A	<p>～進んで記入しようとしている。</p> <p>～進んで取り組もうとしている。</p> <p>～進んで意見交換をしようとしている。</p>	<p>～整理している。</p> <p>～適切に当てはめている。</p> <p>～具体例を挙げまとめている。</p>	<p>～説明している。</p>
B	<p>喫煙・飲酒の心身への影響について、学習した内容を学習カードに記入しようとしている。</p> <p>薬物乱用の心身への影響や社会的影響について、学習した内容を学習カードに記入しようとしている。</p> <p>喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけとなる要因についての参加型学習に取り組もうとしている。</p> <p>喫煙、飲酒、薬物乱用等の行為を助長する心理状態・社会環境等への適切な対処について、仲間と意見交換しようとしている。</p>	<p>喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけとなる理由・要因について考え、仲間との意見交換をもとに、整理している。</p> <p>薬物等に手を出さない生き方に必要な心の持ち方について、自分の考える幸せな生き方に当てはめている。</p> <p>喫煙、飲酒、薬物乱用等の行為を助長する心理状態・社会環境等について適切に対処する必要があることについて、自分なりの考えをまとめている。</p>	<p>酒の主成分はエチルアルコールであり、未成年からの飲酒は依存症になりやすいこと、エチルアルコールが中枢神経の働きを低下させ、思考力や自制力を低下させたり運動障害が起こること、急激に大量の飲酒をすると急性中毒を起こし意識障害や死に至ることもあることについて、言ったり、書き出したりしている。</p> <p>たばこの煙の中には有害物質が含まれておりニコチンには依存性もあること、喫煙によって様々な急性影響が現れること、未成年生徒の喫煙は身体に悪影響を及ぼすだけでなく、長期の連用により身体をむしばむこと becoming ことについて、言ったり、書き出したりしている。</p> <p>覚せい剤や麻薬の摂取によって幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと、連用により依存症状が現れ、中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起きること、個人の心身の健全な発育や人格の形成を阻害するだけでなく、社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため、暴力、性的非行、犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあることについて、言ったり、書き出したりしている。</p> <p>喫煙・飲酒・薬物乱用には、個人の心理状態・人間関係・社会環境が影響することについて、言ったり、書き出したりしている。</p> <p>薬物等に手を染めない幸せな生き方をするためには、自分自身を大切に思う気持ちが重要であることについて、言ったり、書き出したりしている。</p> <p>喫煙・飲酒・薬物乱用等の行為を助長する心理状態や社会状況に対する適切な対処の仕方について、言ったり、書き出したりしている。</p>
C	<p>～部分的な記入に留まっている。</p> <p>～取り組めないときがある。</p> <p>～断片的な意見交換に留まっている。</p>	<p>～不十分な整理になっている。</p> <p>～不適切に当てはめている。</p> <p>～考えをまとめられずにいる。</p>	<p>～断片的に言ったり書き出したりしている状況に留まっている。</p>
C	<p>～記録しようとしていない。</p> <p>～取り組もうとしていない。</p> <p>～意見交換しようとしていない。</p>	<p>～整理ができずにいる。</p> <p>～当てはめられずにいる。</p> <p>～全く考えられずにいる。</p>	<p>～全く言えなかったり、書き出したりできないでいる。</p>
手だて	<p>・課題や指示を与えても、調べようとしなかったり、取り組もうとしなかったりする生徒については、個別に具体的な資料や場面を提示したり、一緒に考えたり、励ましたりして、関心や意欲を起こさせる。</p>	<p>・整理ができなかったり考えをまとめられずにいる生徒については、個々に対応できるワークシートづくり等の工夫を行い、問題点を見つけることができるようにする。</p>	<p>・言ったり、書き出したりせずにいる生徒については、ワークシートをもう一度見直し確認することによって再度整理し、理解の程度に応じた補足説明をして理解できるようにする。</p>

ウ 評価と指導の計画

時間	小単元	学習内容と活動	学習活動における 具体的評価規準			評価の 方法
			関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断	知識・ 理解	
1	喫煙と健康・ 飲酒と健康	<p>【学習内容】</p> <p>酒の主成分はエチルアルコールであり、未成年からの飲酒は依存症になりやすいこと。エチルアルコールが中枢神経の働きを低下させ、思考力や自制力を低下させたり運動障害が起こること。急激に大量の飲酒をすると急性中毒を起こし意識障害や死に至ることもあること。</p> <p>たばこの煙の中には有害物質が含まれておりニコチンには依存性もあること。喫煙によって様々な急性影響が現れること。未成年者の喫煙は身体に悪影響を及ぼすだけでなく、長期の連用により身体をむしばむことになること。</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 喫煙・飲酒の心身への影響を理解する。 2 未成年者の喫煙・飲酒はなぜいけないのか考える。 				<p>【関・意・態】</p> <p>観察 学習カード</p> <p>【知・理】</p> <p>観察 学習カード</p>
2	薬物乱用と健康	<p>【学習内容】</p> <p>覚せい剤や麻薬の摂取によって幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと。連用により依存症状が現れ、中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起きること。個人の心身の健全な発育や人格の形成を阻害するだけでなく、社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため、暴力、性的非行、犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあること。</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 薬物乱用の心身への影響・社会への悪影響について考え、学習カードに記入する。 2 薬物乱用経験者の手記を読む。 3 薬物標本に触れる。 				<p>【関・意・態】</p> <p>観察 学習カード</p> <p>【知・理】</p> <p>観察 学習カード</p>
3	喫煙・飲酒・ 薬物乱用の きっかけ	<p>【学習内容】</p> <p>喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、好奇心、投げやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、周囲の人々の影響や人間関係の中で生じる断りにくい心理、宣伝・広告や入手のし易さなどの社会環境などによって助長されること。</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ブレインストーミングを行い、喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけについての要因を挙げる。 2 カードによる分類法を行い、要因をグループ化する。 3 「心の問題」「社会の問題」「その他」の再度グループ化する。 				<p>【関・意・態】</p> <p>観察</p> <p>【思・判】</p> <p>観察 付箋</p> <p>【知・理】</p> <p>学習カード</p>
4	薬物等に 手を出さ ない心の 持ち方	<p>【学習内容】</p> <p>薬物等に手を出さないで、幸せな生き方をするためには、自分自身を大切に思う気持ちが重要であること。</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 セルフエスティームの大切さに気付くための取り組み（自分カード）を班ごとに行う。 2 幸せな生き方をするための心の持ち方を考え、学習カードに記入する。 				<p>【思・判】</p> <p>観察 ワーク シート</p> <p>【知・理】</p> <p>学習カード</p>
5	たばこ・ 酒・薬物に 手を出さな いために	<p>【学習内容】</p> <p>喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為を助長する心理状態や社会環境などに対処する必要があること。</p> <p>喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為を助長するものに対して適切に対処するためには、自分を大切に思う気持ちが土台になること。</p> <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 次の場面・状況について、感じることや対処の仕方について、プリントに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 広告・宣伝の誘い ・ インターネット・サイトからの誘い ・ 友達・先輩からの誘い 2 次の心理状態のときの対処の仕方について、プリントに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 興味・好奇心を持った状態 ・ ストレスを持った状態 ・ 投げやりな気持ちを持った状態 3 薬物等の行為を助長するものに対して適切に対処するためには何が大切か考え、プリントに記入する。 4 土台となるものについて考える。 				<p>【関・意・態】</p> <p>観察</p> <p>【思・判】</p> <p>観察 ワーク シート</p> <p>【知・理】</p> <p>学習カード</p>

エ 学習指導の工夫

(ア) プレゼンテーションソフトの活用

1、2時間目に、喫煙・飲酒・薬物乱用の心身・社会への悪影響についての知識をより効果的に身に付けさせるため、プレゼンテーションソフトを活用した授業を行う。

スライド作成にあたっては、画像やアニメーション効果を多く取り入れることにより視覚に働きかけ、文字数を少なくし字体を大きくすることで要点を簡潔にまとめ、色づかいを工夫することでより印象に残りやすいものとなるようにする。

実際の活用の場面では、板書に要する時間が省けることや画像が与えるインパクト、アニメーション効果による強調などといったプレゼンテーションソフトならではの利点を活かしながら授業を進めていく。

(イ) 薬物乱用経験者の手記・薬物標本の使用

2時間目の後半に、薬物乱用の心身・社会への悪影響について学習した内容に実感を伴わせるために、薬物乱用経験者の手記を読み、薬物標本に触れる取り組みを行う。実際に薬物乱用を経験した者の体験談を読み、更にイミテーションではあるが本物同様のものを手にして見ることで、薬物の恐ろしさや、薬物が決して遠い存在ではないことが感じ取れるようにする。

薬物乱用経験者の手記は、覚せい剤・大麻の乱用経験者のものとし、内容は、摂取による害や症状といった身体的影響や警察との関わりなど、薬物乱用によって生じる社会的影響について書かれているものを取り上げる。読む時間や集中力の持続といったことも踏まえ、取り扱う手記は4つとし、それぞれの字数は600～700字程度(A4プリント半分程度)に要約する。

薬物標本は、横浜税関・神奈川県庁薬務課等からの借用も含め8セット程度を用意する。薬物乱用経験者の手記を読みながら、そこに書いてある恐ろしい出来事や悲惨な事実などを引き起こす直接の引き金となるものと同様のものを目にしたり触れたりすることによって、学習から得た知識や手記を通して感じた恐ろしさ等について、更にリアルな実感を伴わせる。

(ウ) 参加型学習の導入

3時間目に、喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為を助長する要因について意見を出し合い思考の深まりを促し、また、それらを自分のこととして捉えることができるように、参加型学習(ブレインストーミング・カードによる分類)を行う。思考を促し、活発な意見交換がしやすいように、生活班をそのまま参加型学習の活動のグループとする。

ブレインストーミングは、競争形式を取り入れて行うことで、より多くの意見が出てくるような雰囲気をつくる。また、他人の意見を否定しないという約束事を徹底することにより、活発でない生徒にとっても意見を出しやすくする。

カードによる分類では、まず、出された付箋を班ごとに自由にカテゴリー化させる。その後の再カテゴリー化の段階では教師側から「心の問題」「社会の問題」「その他」に分けることを指示し、心・気持ちが大切であることに気付くように導き、次の学習につなげていく。

(エ) セルフエスティームを大切に学習指導

1時間目から5時間目を通して、セルフエスティームの大切さに気付くような発問を行った。特に4時間目には「自分カード実習」を行い、セルフエスティームを高める取り組みを行う。「自分カード実習」とは、自分の良さや自分が他人から認められている存在であることに改めて気付くための活動である。

まず自分の良い所をカードに書き、その後友達の良い所をシールに書いてそれを交換することで、自分を再発見するきっかけとする。自分自身で書いた自分の良い所を再確認したり、自分では気付かなかった良い所に気付くことによって、自分が他人から認められた存在であり、自分を好きになり大切に思う気持ちへとつなげていく。また、友達の良い所を挙げることで、友達の良さを再確認し、友達のことも好きになり大切に思う気持ちへとつなげていき、自分自身、そして自分以外の誰もがかけがえのない存在であることに気付くようにする。より活動がしやすいように、生活班を男女別にするので、3～4人の少人数で同性同士のグループ編成とする。

(オ) 幸せな生き方について考える学習指導



4時間目の後半と5時間目に、自分を大切にすることが幸せな生き方につながることを理解するために、幸せな生き方について考えさせる学習を行う。


幸せの捉え方は人によって様々であり、定義付けをすることは困難であるが、薬物等に手を染めることは少なくとも幸せにはつながらないことを理解させる。また、部活動や趣味などの楽しいことや打ち込めるものがあるといった、薬物等に見向きもしないでいられる状態も幸せな生き方であることを説明し、薬物と無縁の笑顔でいられる生活を送ってほしいとのメッセージも伝える。

自分自身や他人を好きになり大切にすることが薬物等に手を染めない幸せな生き方につながることを、また、薬物乱用などの行為を助長する心理的要因や社会的要因などに適切に対処するためにはセルフエスティームが土台となることに気付かせる。




4 授業の実際


		1 時間目 「喫煙と健康・飲酒と健康」		
学習のねらい		酒の主成分はエチルアルコールであり、未成年からの飲酒は依存症になりやすいこと、エチルアルコールが中枢神経の働きを低下させ、思考力や自制力を低下させたり運動障害が起こること、急激に大量の飲酒をすると急性中毒を起こし意識障害や死に至ることもあることを理解できるようにする。 たばこの煙の中には有害物質が含まれておりニコチンには依存性もあること、喫煙によって様々な急性影響が現れること、未成年者の喫煙は身体に悪影響を及ぼすだけでなく、長期の連用により身体をむしばむことになることを理解できるようにする。		
時間		学習内容と活動	教師の指導・支援	評価と方法
はじめ	10分	オリエンテーションを行う。 ・単元の学習内容と本時の学習内容を確認する。	・道徳的内容が含まれることを説明する。 ・集中して話が聞けない生徒には、声をかける。	
なか	15分	<p>【学習内容】</p> 酒の主成分はエチルアルコールであり、未成年からの飲酒は依存症になりやすいこと。エチルアルコールが中枢神経の働きを低下させ、思考力や自制力を低下させたり運動障害が起こること。急激に大量の飲酒をすると急性中毒を起こし意識障害や死に至ることもあること。	・プレゼンテーションソフトを使用し、学習内容に関連する画像を提示しながら説明したり発問したりして理解を促す。	<p>【関心・意欲・態度】</p> 喫煙・飲酒の心身への影響について学習した内容を、学習カードに記入しようとしている。 （観察・学習カード）
		飲酒の良いと思うところを挙げる。 飲酒には良いところもあるが、それには条件があることを知る。 飲酒の悪いところを挙げる。	<p>【予想される答え】</p> アル中になる 酔っ払う など	<p>【知識・理解】</p> 酒の主成分はエチルアルコールであり、未成年からの飲酒は依存症になりやすいこと、エチルアルコールが中枢神経の働きを低下させ、思考力や自制力を低下させたり運動障害が起こること、急激に大量の飲酒をすると急性中毒を起こし意識障害や死に至ることもあることについて、言ったり書き出したりしている。 （観察・学習カード）
		<p>発問 1：飲酒は体にどのような影響があるか？</p> 飲酒の体への影響について考える。 ・お酒は主にどんな成分か ・酒が体内に入るとどうなるか ・一度に大量の酒を飲むとどうなるか ・長期間に渡って飲酒を続けるとどうなるか 飲酒の害について、教師の説明を聞く。	・思いついたことを言わせるようにする。 ・飲酒の体への影響について理解できるようにする。 ・様子を観察し、必要に応じて補足説明等を行い、理解できるようにする。	
			<p>【つまずいている生徒への手立て】</p> ・何が分からないのかを問いかけ、分かりやすい言葉に代えて説明したり、具体例を挙げたりする。	
		<p>発問 2：なぜ未成年者の飲酒はいけないのか？</p> 未成年者の飲酒はなぜいけないのか考える。	・未成年からの飲酒は、悪影響を多く受け依存症にもなりやすいことを理解できるようにする。	
			<p>【予想される答え】</p> 法律で 害が大きい など	

<p>な か</p>	<p>15 分</p>	<p>【学習内容】</p> <p>たばこの煙の中には有害物質が含まれており、ニコチンには依存性もあること。喫煙によって様々な急性影響が現れること。未成年生徒の喫煙は身体に悪影響を及ぼすだけでなく、依存性があるため長い年月にわたり運用することにより身体を蝕むことになること。</p> <p>喫煙の良いと思うところを挙げる。 喫煙には良いところはないことを知る。 喫煙の悪いところを挙げる。</p> <p>発問3：喫煙は体にどんな影響があるのか？</p> <p>喫煙の体への影響について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこの煙にはどんな成分が含まれているか ・喫煙の急性影響について ・長期間に渡って喫煙を続けるとどうなるか ・受動喫煙について <p>喫煙の害について、教師の説明を聞く。</p>  <p>発問4：なぜ未成年者の喫煙はいけいないのか？</p> <p>未成年者の喫煙はなぜいけないのか考えさせる。 未成年者の喫煙が禁止されている理由について、教師の説明を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを活用し、学習内容に関連する画像を提示しながら説明したり発問したりして理解を促す。 <p>【予想される答え】</p> <p>肺がんになる 死ぬ など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喫煙の体への影響について理解できるようにする。 ・様子を観察し、必要に応じて補足説明等を行い、理解できるようにする。 <p>〔つまずいている生徒への手立て〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が分からないのか問いかけ、分かりやすい言葉に代えて説明したり、具体例を挙げたりする。 <p>【予想される答え】</p> <p>法律 害が大きい など</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>喫煙・飲酒の心身への影響について学習した内容を、学習カードに記入しようとしている。</p> <p>(観察・学習カード)</p> <p>【知識・理解】</p> <p>たばこの煙の中には有害物質が含まれておりニコチンには依存性もあること、喫煙によって様々な急性影響が現れること、未成年生徒の喫煙は身体に悪影響を及ぼすだけでなく、長期の運用により身体をむしばむことになることについて、言ったり、書き出したりしている。</p> <p>(観察・学習カード)</p>
<p>ま と め</p>	<p>10 分</p>	<p>発問5：なぜたばこ、酒に手を出す中学生がいるのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをし、学習カードに記入する ・次回の学習について、説明を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問5の答えは、単元を通して答えを出していくことを伝える。 ・プリント・カード等を用意したり、本時の学習内容を簡単に説明したりするなど、本時の振り返りが行いやすいようにする。 	

授業の振り返り


- ・喫煙・飲酒の心身への影響についての知識の定着を図るため、プレゼンテーションソフトを活用した。
- ・文字数を少なくし字体を大きくすることで要点を簡潔にまとめ、画像やアニメーション効果を多く取り入れたり色づかいを工夫したりすることで視覚に働きかけ、印象に残るようなスライドとした。
- ・生徒にとってプレゼンテーションソフトを活用した授業は初めてであり、物珍しさや新鮮さも手伝って、興味深くスクリーンを見つめていた。
- ・知識をしっかりと教え込みたいという意識から教師側の説明が多くなってしまったが、生徒は集中して取り組んでいた。プレゼンテーションソフトを活用したことは効果があったと感じた。



2 時間目 「薬物乱用と健康」				
学習のねらい		覚せい剤や麻薬の摂取によって幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと、連用により依存症状が現れ、中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起きること、個人の心身の健全な発育や人格の形成を阻害するだけでなく、社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため、暴力、性的非行、犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあること、を理解できるようにする。		
時間		学習内容と活動	教師の指導・支援	
評価と方法				
はじめ	10分	前時の学習内容と本時の学習内容を確認する。 前時の確認プリントを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して話が聞けない生徒には、声をかける。 ・分からないときは、教科書を見たり仲間同士で教え合ったりしてよいことを伝える。 	
なか	15分	<p>【学習内容】</p> <p>覚せい剤や麻薬の摂取によって幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと、連用により依存症状が現れ、中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起きること、個人の心身の健全な発育や人格の形成を阻害するだけでなく、社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため、暴力、性的非行、犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあること。</p> <p>薬物にはどんな種類があるかを挙げる。薬物乱用の定義について説明を聞き、学習カードに記入する。</p> <p>発問 1：なぜ薬物乱用はいけないのか？</p> <p>薬物乱用はなぜいけないのか考えさせる。</p> <p>【予想される答え】 死ぬ 人格破壊 など</p> <p>発問 2：薬物乱用は心身にどのような影響があるか？</p> <p>薬物乱用の心身への影響について考え、学習カードに記入する。 薬物乱用の害について、教師の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンナーについて ・覚せい剤について ・大麻について ・その他の薬物について <p>薬物の社会的悪影響について考える、学習カードに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを使用し、学習内容に関連する画像を提示しながら説明したり発問したりして理解を促す。 <p>【予想される答え】 アル中になる 酔っ払う など</p> 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>薬物乱用について学習した内容を、学習カードに記入しようとしている。 (観察・学習カード)</p> <p>【知識・理解】</p> <p>覚せい剤や麻薬の摂取によって幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと、連用により依存症状が現れ、中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起きること、個人の心身の健全な発育や人格の形成を阻害するだけでなく、社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため、暴力、性的非行、犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあることについて、言ったり書き出したりにしている (観察・学習カード)</p>
			<ul style="list-style-type: none"> ・思いつたことを言うように助言する。 ・薬物の心身への影響について理解できるようにする。 ・様子を観察し、必要に応じて補足説明等を行い、理解できるようにする。 <p>〔つまずいている生徒への手立て〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が分からないのか問いかけ、分かりやすい言葉に代えて説明したり、具体例を挙げたりする。 	

<p>なか か</p>	<p>15 分</p>	<p>薬物乱用経験者の手記を読む。</p>  <p>発問3：薬物乱用経験者の手記の共通点は何か？</p> <p>各手記の共通点について、学習カードに記入する。 薬物乱用経験者の薬物に手を出した動機や、その後の生活の悲惨さ、後悔の気持ちなどについて、教師の話聞く。 薬物標本に触れる。</p>	<p>【予想される答え】 後先考えずに始めた 後悔している など</p> <p>・なか で学習した内容を、手記を読むことによって実感を伴わせるようにする。 ・興味や投げやりな気持ちで始めた薬物乱用が、一生取り返しのつかないことになることを気付かせるようにする。</p> <p>〔つまづいている生徒への手立て〕 ・共通点を見つけられなかったり集中して取り組めない生徒には声をかけ、班の仲間と協力して取り組めるようにする。</p>	
<p>ま と め</p>	<p>5 分</p>	<p>発問4：なぜ、薬物に手を出す人がいるのか？</p> <p>・本時の振り返りをし、学習カードに記入する ・次回の学習について、説明を聞く</p>	<p>・発問4の答えは、単元を通して答えを出していくことを伝える。 ・プリント・カード等を用意したり、本時の学習内容を簡単に説明したりするなど、本時の振り返りがしやすいようにする。</p>	

授業の振り返り


- ・薬物乱用の心身・社会への影響についてのより効果的な知識の定着を図るため、プレゼンテーションソフトを活用した。本時も画像やアニメーション効果等を取り入れ、印象に残るようなスライド作りを心がけた。
- ・生徒はスクリーンに集中していた。
- ・後半は、薬物の恐ろしさや、薬物が決して遠い存在でないことについて実感を伴わせるために、薬物乱用経験者の手記を読み、薬物標本に触れる取り組みを行った。
- ・薬物乱用経験者の手記を読む場面では、静まり返った雰囲気の中で文字を追い、文面から恐怖や悲惨さを感じ取っていた。学習カードに書かれた感想には、絶対に薬物には手を出したくないという強い決意が感じられるものが多かった。
- ・薬物標本に触れる場面では、そのお菓子のようない見た目に驚いていた。直前に読んだ手記に書かれていた恐ろしさや悲惨さと、目の前にあるお菓子のような物とが同一線上にあるものとして結び付かないという思いを持った生徒が多かった。このお菓子のような物によって人生が狂わされてしまうことへの驚きや、薬物とは知らずに騙されて貰ってしまいそうといった感想が多かった。


3時間目 「喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ」			
学習のねらい		喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、好奇心、投げやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、周囲の人々の影響や人間関係の中で生じる断りにくい心理、宣伝・広告や入手のし易さなどの社会環境などによって助長されることを、理解できるようにする。	
時間		学習内容と活動	教師の指導・支援
はじめ	5分	前時の学習内容と本時の学習内容の確認をする。 本時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を説明する。 ・集中して話が聞けない生徒には、声をかける。
なか	30分	<p>【学習内容】 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、好奇心、投げやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、周囲の人々の影響や人間関係の中で生じる断りにくい心理、宣伝・広告や入手のし易さなどの社会環境などによって助長されること。</p> <p>前回と前々回に書いた、「なぜたばこ・酒・薬物に手を出してしまうのか？」についてをまとめたプリントを読み、皆の考えを共有する。 前回読んだ薬物乱用経験者の手記を再度読む。 残りの2つの手記を代表生徒が朗読する。 グループ分けをする。(生活班)</p> <p>発問1：なぜたばこ・酒・薬物に手を出してしまうのか？</p> <p>ブレインストーミングを行う。 ・付箋に理由・要因を書き出す ・いくつ出たか発表する ・出てきた内容を班員みんなで見合う ・目立った理由・要因や、どんな理由・要因が出たかを発表する 付箋をカテゴリー化することにより、手を出してしまう理由・要因について考える。</p>  <p>ブレインストーミングとカテゴリー化でまとめた、手を出してしまう理由・要因について、発表する。 理由・要因のまとめ方について教師のアドバイスを聞き、次のように再カテゴリー化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の問題 ・社会の問題 ・その他 <p>たばこ・酒・薬物に手を出してしまう理由・要因については様々なものがあるが、ほとんどが心の問題と社会の問題に当てはまることに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のものを改めて教師が読み、内容を再確認する。 <p>【予想される答え】 ストレス カッコつけ 興味 投げやりな気持ち など</p> <p>【関心・意欲】 喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけとなる理由・要因についての参加型学習に取り組もうとしている。 (観察)</p> <p>【思考・判断】 喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけとなる理由・要因について考え、仲間との意見交換をもとに整理している。 (観察・付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出された意見に対して、批判や否定をせず、認めるようにする。 ・自由に意見が言えるようにする。 ・できるだけ多くの意見が出せるようにする。 ・他人の意見に便乗したり、出た意見を結合したりして、新しい意見を出したりするようにする。 ・共通していると思われる付箋を集めて、見出しを付けるように指示する。 <p>〔つまずいている生徒への手立て〕 ・意見が出せなかったり集中して取り組めない生徒には、発問をしたり具体例を挙げたりして、意見が出せるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な理由があることや、心理状態・社会的環境などが関わっていることについて気付くようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・付箋を貼った模造紙を改めて見るようにする。

ま と め	10 分	<p>本時で学習した内容を改めて確認し、学習カードに記入する。</p> <p>発問2：たばこ・酒・薬物に手を出さないためには何が大切か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをし、学習カードに記入する ・次回の学習について、説明を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習（振り返り）カードを配付し記入するようにする。 ・たばこ・酒・薬物に手を出さないために、心の問題を明らかにすることが必要であると気付くようにする。 ・プリント・カード等を用意したり、本時の学習内容を簡単に説明したりするなど、本時の振り返りがしやすいようにする。 	<p>【知識・理解】 喫煙・飲酒・薬物乱用には、個人の心理状態・人間関係・社会環境が影響することについて、書き出している。 (学習カード)</p>
-------------	---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------

授業の振り返り

- ・喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為を助長する要因について意見を出し合い思考の深まりを促すために、参加型学習（ブレインストーミング・カードによる分類）を行った。
- ・ブレインストーミングでは、予想していた以上に意見が出た。出た意見の数を競うといったゲーム的要素もあり、より多くの意見を書き出そうとする姿勢が見られた。
- ・カードによる分類では、出された付箋を分類していく際に、活発な意見交換も見られた。また、自分に置き換えて考えている場面も見られた。
- ・再カテゴリー化の場面では、「心の問題」・「社会の問題」と「その他」に再度分類し直したが、一度自分達がカテゴリー化したものがそれに近い状態だったので、スムーズに分類していくことができた。
- ・最終的に、全ての班で「心の問題」の要因数が一番多かった。


4 時間目 「薬物等に手を出さない心の持ち方（セルフエスティームの気づき）」			
学習のねらい	薬物等に手を染めない幸せな生き方をするためには、自分自身を大切に思う気持ちが重要であることを理解できるようにする。		
時間	学習内容と活動	教師の指導・支援	評価と方法
はじめ	5分	前時の学習内容と本時の学習内容の確認をする。 本時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ班別の座席にしておく。 ・本時の学習内容を確認する。
なか	5分	<p>【学習内容】</p> <p>喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、好奇心、投げやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、周囲の人々の影響や人間関係の中で生じる断りにくい心理、宣伝・広告や入手のし易さなどの社会環境などによって助長されること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に再カテゴリー化した模造紙をもとに、班ごとに、「心理状態」(心の問題)・「社会環境」(社会の問題)の代表的な意見を発表する ・出された意見の数から、「心理状態」(心の問題)が大きいことを改めて確認する。 ・前時に学習した内容を改めて確認し、学習カードに記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表した内容を板書し、「心理状態では」好奇心・投げやりな気持ち・過度のストレス、「社会環境」では周囲の人間関係・宣伝や広告・入手のし易さなどがあることを説明する。
なか	15分	<p>【学習内容】</p> <p>薬物等に手を出さないで、幸せな生き方をするためには、自分自身を大切に思う気持ちが重要であること。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発問1：自分自身の心、特に自分が自分をどう思っているか。考えてみよう。</p> </div> <p>セルフエスティームの大切さに気付くための取り組み（自分カード）を班ごとに行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良い所を書く ・班員の良い所を書く ・書いたものを個人毎に分け、交換する  <p>書いてもらったカードを見て、新しい発見や気付いたことを学習カードに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分には良い所がある ・自分は一人ではない ・自分は人の役に立っていること等に気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったことを素直に書くように指示する。 ・友達の良い所を心を込めて書けるように指示する。 <p>〔つまずいている生徒への手立て〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージの湧かない生徒には、具体例を挙げたりして、カードに記入できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・カードの内容から、自分自身がかけがえない存在であることを説明する。 ・一人ひとりに幸せになって欲しいということを伝える。

な か	10 分	発問2：幸せな生き方とは何だろう？ 自分にとって、幸せな生き方とはどんなことをいうのか考え、学習カードに記入する。 代表生徒が学習カードに書いた内容を発表する。	【予想される答え】 好きなことができる 夢がある など ・幸せな生き方は人それぞれであるが、心の持ちようが深く関わっていることを説明する。	【思考・判断】 薬物等に手を出さない生き方に必要な心の持ち方について、自分の考える幸せな生き方に当てはめている。 (観察・ワークシート)
		発問3：幸せな生き方をするための心の持ち方とは？ (薬物等に手を出さないためには) 幸せな生き方をするための心の持ち方を考え、学習カードに記入する。 	【予想される答え】 心を強く持つ 自分を認める など ・自分を大切にすることが幸せな生き方につながることを説明する。 ・薬物等に手を出すことが幸せな生き方にはつながらないことを説明する。 ・薬物等に手を染めない幸せな生き方をするためにはセルフエスティーム(自己肯定感)が大切だが、自分だけを大切にすることはなく他人も大切にすることが必要であることを伝える。	【知識・理解】 薬物等に手を染めない幸せな生き方をするためには、自分自身を大切に思う気持ちが重要であることについて書き出している。 (学習カード)
ま と め	10 分	本時の振り返りをする。 感想を書く。	・感想欄には本時の取り組み全体を通して感じたことを書くように指示する。 ・一人ひとりに幸せになって欲しいということを再度伝える。	

授業の振り返り

- ・自分の良さや、自分が他人から認められている存在であることに気付くために自分カード実習を行った。
- ・自分の良い所を書く場面では、あまり思い浮かばずに書けない生徒が多かったが、友達の良い所を書く場面では、スムーズに書いていた。1人平均7枚のカードを書けた。
- ・お互いの良い所を書いたカードをグループ内で交換し合いそれを読み合うことで、自分で気が付かなかった自分の良さを発見した生徒が多かった。自分が書いた自分の良い所よりも多くの種類と数を書かれていたので、「嬉しかった」、「意外だった」といった感想が多かった。
- ・実習は少人数で行い、お互いの良い所を出し合うことができた。自分の良さを再発見できた生徒が多かった。
- ・幸せな生き方について考え、発表した。「好きなことができる」、「目標がある」、「健康でいる」等が代表的なものであった。単純な問いのようだが、真剣に考えると難しいと感じた生徒が多かった。
- ・幸せな生き方は人それぞれであるが、心の持ち方が深く関わっているということを説明し、自分自身を大切に思う気持ち、他人も大切に思う気持ちが薬物等に手を染めない幸せな生き方をするにつなげることを説明した。

5 時間目 「たばこ・酒・薬物に手を出さないために」

学習のねらい	喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為を助長する心理状態や社会環境などに対処する必要があること、また、これらに対して適切に対処するためには自分を大切にすることが土台になることを理解できるようにする。		
時間	学習内容と活動	教師の指導・支援	評価と方法
はじめ	5分 前時の学習内容と本時の学習内容の確認をする。 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、好奇心、投げやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、周囲の人々の影響や人間関係の中で生じる断りにくい心理、宣伝・広告や入手のし易さなどの社会環境などによって助長されることについて、説明を聞き確認する。	・本時の説明をする。 ・前時の内容を振り返り、理解できるようにする。	
なか	25分 【学習内容】 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為を助長する心理状態や社会環境などに対処する必要があること。 発問1：喫煙・飲酒・薬物乱用などを誘う状況に対してどのように対処するか？ 次の場面・状況について、感じることや対処の仕方について、プリントに記入する。 ・広告・宣伝の誘い ・インターネット・サイトからの誘い ・友達・先輩からの誘い 代表的な意見を発表する。 発問2：喫煙・飲酒・薬物乱用などに走りやすい心理状態にはどのように対処すればよいか？ 次の心理状態のときの対処の仕方について、プリントに記入する。 ・興味・好奇心を持った状態 ・ストレスを持った状態 ・投げやりな気持ちを持った状態 代表的な意見を発表する。 喫煙・飲酒・薬物乱用による心身や社会への悪影響について、説明を聞き確認する。 	【予想される答え】 信用しない 断る 先輩・友人からだと断りづらい など ・広告・宣伝やインターネット・サイト等の情報・イメージに惑わされずに正しい判断力を身に付ける必要があることが理解できるようにする。 ・断り方について、簡単に触れるようにする。 【予想される答え】 強い心を持つ 正しい知識を持つ 自分の将来や親の気持ちを考える など ・たばこ・酒・薬物に対しての正しい知識を持つことの大切さを理解できるようにする。 ・ストレスの発散や解消について、簡単に触れるようにする。 ・心の問題について、自分を大切に思う気持ちを持つことの大切さと同時に、他人も大切にすることが大切であることを気付かせるようにする。 〔つまずいている生徒への手立て〕 ・充分に取り組めない生徒については、言葉を変えて説明して、思考を促すようにする。	【関心・意欲・態度】 喫煙・飲酒・薬物乱用等を助長する心理状態・社会環境等への適切な対処について、仲間と意見交換をしようとしている。 (観察) 【知識・理解】 喫煙・飲酒・薬物乱用等の行為を助長する心理状態や社会状況に対しての適切な対処の仕方について、言ったり書き出したりにしている。(学習カード) 【思考・判断】 喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為を助長する心理状態や社会状況に対しての適切な対処の仕方について考えている。 (観察・ワークシート)

な か		<p>【学習内容】 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為を助長するものに対して適切に対処するためには、自分を大切に思う気持ちが土台になること。</p> <p>グループになる。</p> <p>発問3：喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為を助長するものに対して適切な対処をするために何が大切か？</p>		
ま と め	15 分	<p>単元の内容の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬物乱用経験者の手記について話を再度聞く ダルク入寮者*からのメッセージを聞く <p>本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 感想・アンケートを書く <p>単元の内容の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 感想・アンケートを書く 知識・理解度チェックを行う 	<p>・自分を大切に思う気持ちが、薬物等に手を出さないための大きな要因であることに気付くようにする。</p> <p>・自分を大切に思っている人がいることに気付いてほしいことを伝える。</p> <p>・薬物と無縁の楽しい幸せな生活を送ってほしいことを伝える。</p> <p>・薬物等に絶対に手を出さないという行動化への意欲につなげられるようにする。</p>	<p>【予想される答え】 正しい知識 断る勇気 自分を大切にする気持ち など</p>

*ダルク(DARC=Drug Addiction Rehabilitation Center)とは、民間の薬物依存症リハビリ施設のこと。今回の授業を行うにあたって、横浜ダルクから資料提供等を受けた。

授業の振り返り

- ・薬物乱用などの行為を助長する心理状態や社会環境などに対応していく必要があることを理解するためにワークシート使用しながら、参加型学習を行った。
- ・喫煙・飲酒・薬物乱用等の行為を助長する心理状態や社会環境などへどのように対処すればいいかを考え、個々でワークシートに記入した。社会環境に対しては、CMによるイメージ作りやインターネットからの誘いには鵜呑みにしない・興味を持たないといった記述が見られ、先輩や友達からの誘いには断る・逃げると答えていた生徒が多かった。心理状態への対処では、相談する・好きなことに打ち込む・自分を大切に思うといった内容が多く書かれていた。
- ・個々が書いたものを持ち寄りグループになり、喫煙・飲酒・薬物乱用等の行為を助長する心理状態や社会環境などへの対処について再度考え、その土台となるものについて話し合いを行った。強い心・自分を大切に思うといった意見が多く出された。
- ・単元を通して、喫煙・飲酒・薬物乱用の害については十分に理解できたと感じた。また、自分や友人の良さを認め、幸せな生き方について考え、自分や周りの人を大切に思うことを通して、セルフエスティームを高めることもできたと思われる。

5 検証授業の結果と考察

ここでは、研究の仮説「プレゼンテーションソフトの活用により、効果的に知識を身に付けさせ、薬物標本・薬物乱用経験者の手記の使用や参加型学習の導入により知識に実感を伴わせ、セルフエスティームを大切にする学習が、行動化への意欲と態度の育成につなげることができたか」を検証するために、検証授業から得られた資料をもとに、P14・15の検証の視点に沿って分析し、考察する。

なお、検証授業の出席生徒数は表3-2の通りである。また、図表中の生徒の記述内容は、できる限り生徒が記述したままの表現で掲載した。

表3-2 授業出席生徒（在籍38名）

時 間	1	2	3	4	5
出席生徒数	35名	37名	37名	37名	37名

(1) プレゼンテーションソフトの活用により、知識が効果的に身に付いたか

ア 画像（実写）・アニメーション効果が、知識を身に付けることに効果があったか

(ア) 知識理解度テストの正答率の分析

単元の最終日、11月13日（火）に、学習内容に関する知識の定着度を測るため、学習内容の中でキーワードとなる部分を（ ）で穴埋めとした、知識・理解度テストを行った。（図3-1）テストの正答率は表3-3の通りである。これらの問題の内容は全てプレゼンテーションソフトを活用して講義を行ったが、「喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけの」²²、²³の問題のみ直接スクリーンに文字として映さなかった。

「喫煙・飲酒・薬物乱用と健康」 単元の確認

3年2組 _____ 番・名前 _____

< 喫煙と健康 >

たばこの煙には、(ニコチン)・(タール)・(一酸化炭素)などの有害物質が含まれる。そのため、喫煙すると毛細血管の収縮・心拍数の(増加)・酸素運搬能力の(低下)などの急性影響が現れる。

ニコチンには(依存)性があるため、喫煙が習慣化すると止めるのが難しくなる。また、喫煙の常習化により、喫煙者は(肺がん)・心臓病・気管支炎などにかかりやすくなる。

喫煙者がたばこから吸い込む煙を(主流)煙、たばこの先から出る煙を(副流)煙という。喫煙者の近くにいる人が喫煙者の吐き出す煙や _____ を吸い込んでしまうことを、(受動)喫煙という。

< 飲酒と健康 >

酒の主成分は、((エチル)アルコール)である。

アルコールが体内に入ると、(脳)や神経の働きを低下させ、思考力や自制心、(運動)能力を低下させる。

アルコールは(肝臓)で処理されるが、その処理能力を上回る量を飲酒すると、(血中アルコール)濃度が上昇し、意識がなくなり呼吸が止まって、死亡することもある。

アルコールには(依存)性があり、長く飲み続けると、お酒なしではいられない(アルコール依存)症の状態になる。

< 薬物乱用と健康 >

薬物乱用とは、(医薬品)を医療の目的からはずれて使用したり、医療が目的でない薬物を不正に使用することで、(1)回の使用で乱用になる。

薬物には(依存)性があるため、止めるのが難しい。また、薬物が切れると、禁断症状として身体的な苦痛が現れる。薬物を乱用すると、人格の障害や幻覚や妄想のために、殺人・放火・性犯罪・交通事故など、(21 社会)全体にも大きな被害を及ぼす。

< 喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ >

喫煙・飲酒・薬物乱用などに手を出してしまう要因には、イライラしたり投げやりな気持ちといった(22 心理)状態や、周囲からの勧めやCM・宣伝の影響などの(23 社会)環境がある。

図 3 - 1 知識・理解度テスト用紙

表 3 - 3 知識・理解度テスト正答率

94.4%	94.4%	94.4%	80.6%	77.8%	94.4%	86.1%	91.7%	91.7%	77.8%
97.2%	91.7%	77.8%	86.1%	77.8%	94.4%	94.4%			
			21	22	23				
80.6%	91.7%	91.7%	77.8%	75%	77.8				

全体の正答率は75%～97.2%であり、単元の学習内容が概ね理解されたと判断できたが、23問中7問が正答率80%を割っていた。

22・23(プレゼンテーションソフトを活用しなかった、「喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ」)の部分についてはいずれも正答率80%を割っていた問題であり、特に22の問題については、23問中最低点であった。プレゼンテーションソフトを活用しなかった部分の正答率が低かったことは、スライド教材に改善すべき点はあるものの、スライドを活用した講義に一定の有効性を得られたと考える。

(イ) 事後（授業）アンケートの5段階評価及び記述の分析

単元終了後に行った、教師の指導についてのアンケートにおいて、「プレゼンテーションソフトを活用した授業は分かりやすかったですか?」という質問を行った。その結果、「すごく分かりやすかった」、「分かりやすかった」と答えた生徒の割合は100%であった。(図3-2)

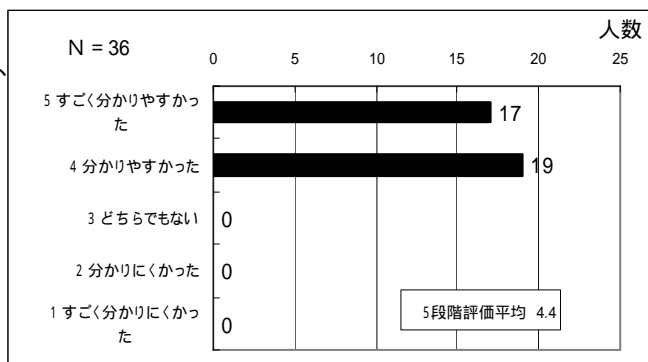


図3-2 事後（授業）アンケート「スクリーンを使った授業は分かりやすかったかですか?」

その理由として、アニメーションの効果や、文字や図の見易さをあげていた生徒が多かった。(図3-3)

この手法の生徒による5段階評価の平均は4.4であった。

1時間目の学習カードに書かれていた生徒の感想からも、効果を実感したことが伺える。生徒にとってプレゼンテーションソフトを活用した授業は全員初めての経験だったため、物珍しさや新鮮さも手伝って、知識を身に付けることに役立ったと考える。

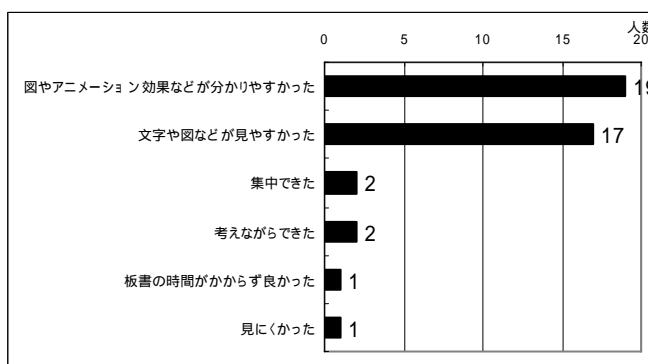


図3-3 事後（授業）アンケート「分かりやすかった理由」（複数回答制）

表3-4 1時間目の感想（学習カードから抜粋）

見やすくて分かりやすかった。酒に含まれている物がどのように身体に影響を及ぼすか、たばこに含まれる物が身体に影響を及ぼすか分かり勉強になった。
悪くなった肺を見て、なぜあんなものに手を出すのかと思った。
写真があってとても分かりやすかった。たばこ・酒の怖さを知ったと思う。
今日のことはこれからのことでとても大切なことだと思いました。たばこの害などがとてもよく分かりました。あととても見やすくて分かりやすかったです。
スクリーンを使ってけっこう楽しかった。たばこや酒がダメだと改めて感じる事ができた。
スクリーンを使って面白かったです。お酒は大人になってから飲むのはいいと思う。私は飲みたくないけど…。たばこは子どもだろうが大人だろうが手を出しちゃダメだなーと思った。
パソコンを使って授業するのがとても楽しかった。スクリーンに写っている字や写真も大きくて見やすかった。家族の中にたばこを吸う人がいるから私にもどれくらい害があるか分かってよかった。
色々な画像を見ながらやったから分かりやすかった。あまり害のことについては分からなかったけど写真などを見てとても悪いことなんだと思った。
画像があって集中して授業を受けることができました。父がよくお酒を飲みます。注意しようと思います。身内にたばこを吸っている人がいるので注意を心がけたいです。

(ウ) 事前・事後アンケートの比較

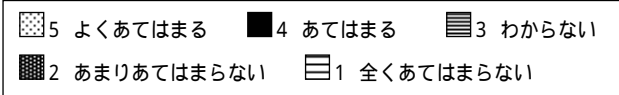
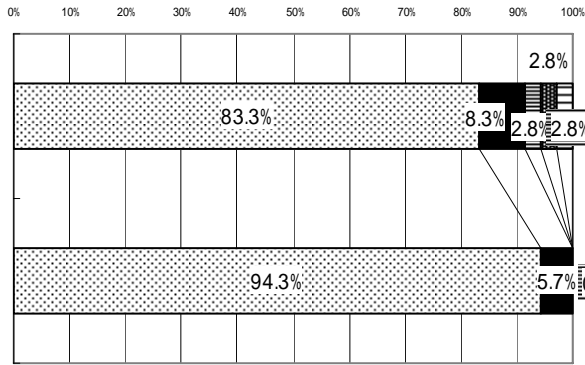
図3 - 4 (次ページ)は、単元の事前及び事後アンケート(Q14・20・26)において、たばこ・酒・薬物のそれぞれについて「害があると思うか」という問いの結果である。全ての問いで、「よくあてはまる」のパーセンテージが増え、「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」については0人となった。

特に、Q20の「酒は害があると思います」の問いに対しては、「よくあてはまる」と回答した生徒の割合が13.9%から60.0%に、「あてはまる」と回答した生徒の割合が19.4%から37.1%へと増加していた。「よくあてはまる」「あてはまる」の上位部を合計すると、事前と事後において63.8ポイントの増加が見られた。(人数では22人)

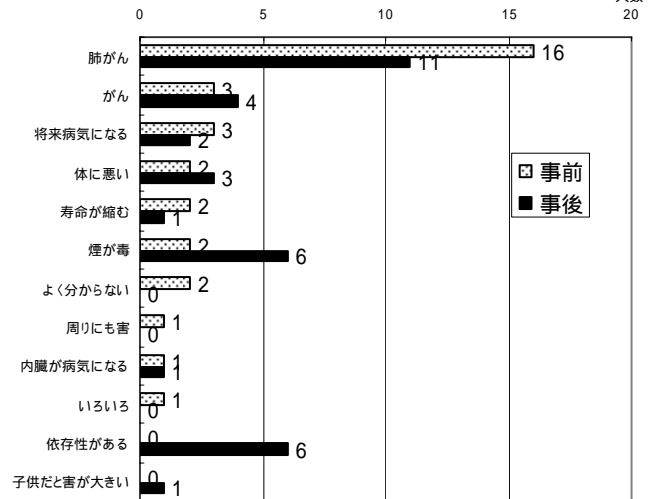
なお、Q14のたばこの質問とQ26の薬物の質問では、事前アンケートの段階で既に「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒が大変多かったため、パーセンテージの増加としては微妙な変化であったが、たばこ・酒・薬物の全てに対して、害であることの認識は高まったと判断できる結果が出た。

「どのような害があるか」の問いに対しては、たばこについては事前アンケートでは「肺がん」という回答が多かったが、事後アンケートでは「依存性」や「煙の成分」といった、学習した内容に関わることを答えた生徒が増えた。酒についても、事前アンケートでは「飲みすぎは悪い」という回答が最も多かったが、事後アンケートでは「アルコール依存症」「アルコール中毒」「肝臓に悪い」と、学習した内容の回答が増えた。薬物については、事前アンケートでは「正常でなくなる」といった表現が多く書かれていたのに対し、事後アンケートでは「幻覚・幻聴・錯乱状態」「脳が溶ける」といった具体的な例を挙げていた。また、死の危険性を挙げている生徒が増加した。

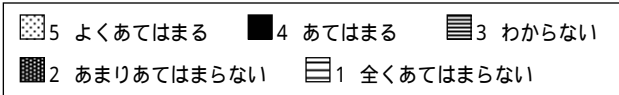
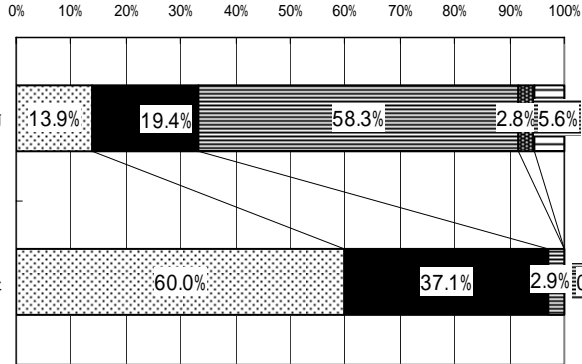
Q14 たばこは害があると思います
5段階評価平均 事前4.7 事後4.9



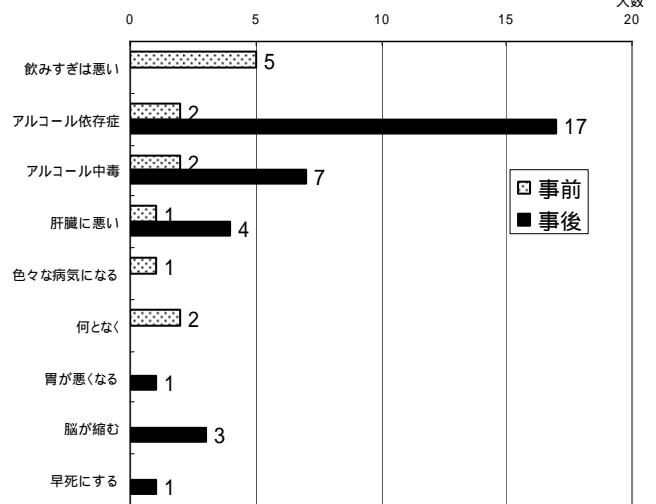
どのような害があると思いますか



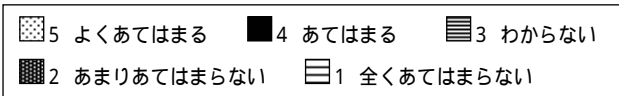
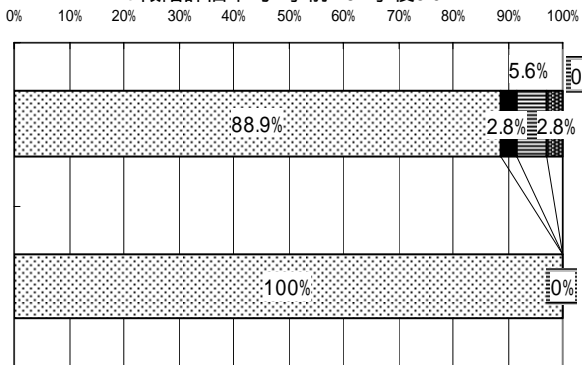
Q20 酒は害があると思います
5段階評価平均 事前3.3 事後4.6



どのような害があると思いますか



Q26 薬物は害があると思います
5段階評価平均 事前4.8 事後5.0



どのような害があると思いますか

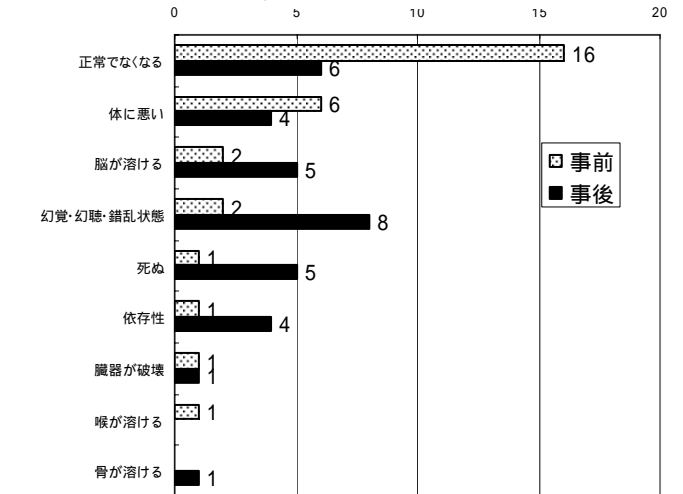


図3-4 事前・事後アンケート（薬物等の害認識に関する項目）の比較

「視点(1)プレゼンテーションソフトの活用により知識が効果的に身に付いたか」についての考察

知識・理解度テストでは、各問で約8割の生徒が正答を答えており、単元の学習内容を概ね理解することができたと判断できたと考える。また、事前アンケートと事後アンケートの比較において、たばこ・酒・薬物の害に対する認識の高まりが確認できた。害の具体的な内容として、授業で学習した用語を挙げている生徒が増えており、知識を身に付けることができたと思われる。

プレゼンテーションソフトの活用に関しては、アンケートの結果から、全員から「見やすかった」「分かりやすかった」といった、学習する上でプラスに作用しているとれる結果が得られた。

他の集団に対してプレゼンテーションソフトを活用せずに同じ学習内容を行い、それぞれを比較するといったような手段をとっていないので、どの程度有効であるのか明らかにすることは困難であるが、プレゼンテーションソフトを活用できなかった部分の知識・理解度テストの正答率の低さから、学習効果が期待できるツールであることは間違いないと思われる。

(2) 薬物乱用経験者の手記・薬物標本の使用・参加型学習の導入により、知識に実感を伴わせることができたか

ア 薬物乱用経験者の手記を読むことが、知識に実感を伴わせることに効果があったか

(ア) 事後(授業)アンケートの5段階評価及び記述の分析

単元終了後に行った教師の指導についてのアンケートにおいて、「薬物乱用経験者の手記を読んで、恐ろしさや悲惨さなどを感じ取れましたか?」という質問を行った。その結果、「すごく感じ取れた」「感じ取れた」と答えた生徒は37人中36人で97%であり、この手法の生徒による5段階評価の平均値は4.6であった。

(図3-5)

「すごく感じ取れた」「感じ取れた」と答えた理由は、図3-6のように「恐ろしさ」や「悲惨さ」等をストレートに感じたという生徒が多いが、本人の後悔の念や周囲の人の悲しみを感じ取った生徒もいた。

これらの結果から、薬物乱用経験者の手記を読む場面を取り入れることで単なる害の知識だけではなく、恐ろしさ・悲惨さという実感を伴った理解につなげることができたと考える。

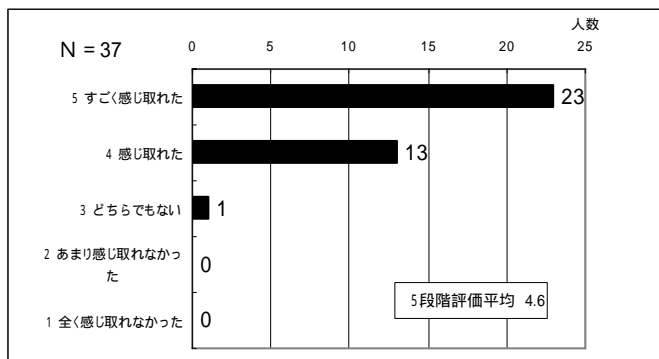


図3-5 事後(授業)アンケート「薬物乱用経験者の手記を読んで、恐ろしさ・悲惨さなどを感じ取れましたか?」

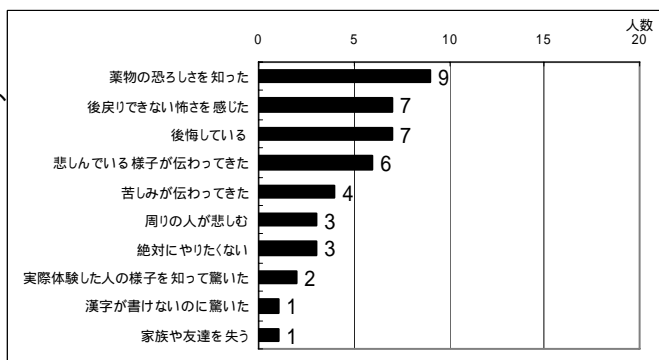


図3-6 事後(授業)アンケート「感じ取れた理由」

イ 薬物標本の使用が、知識に実感を伴わせることに効果があったか

(ア) 事後(授業)アンケートの5段階評価及び記述の分析

単元終了後に行った教師の指導についてのアンケートにおいて、「薬物標本を見て、薬物の存在が決して遠いものではないと思いましたか?」という質問を行った。その結果、「すごく思った」「思った」と答えた生徒の割合は37人中34人で、92%であった。(図3-7)その理由として、「簡単に手に入りそう」「どこにでもありそうな感じ」「お菓子みたい」といった表現が「恐ろしさ」を大きく上回っていた。また、この手法の生徒による5段階評価の平均は、4.3であった。(図3-8)

イミテーションであるが見た目には本物と同様のものを実際に目の前で見ることで、学んだ知識や手記を読んで感じた事柄を、より現実的なものとして感じることに繋がったと考えられる。

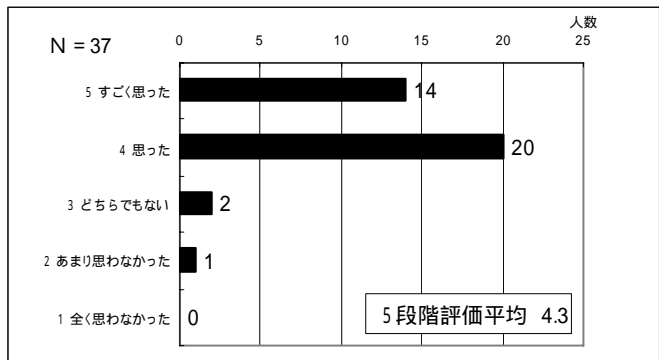


図3-7 事後(授業)アンケート「薬物標本を見て、薬物の存在が決して遠いものではないと思いましたか?」

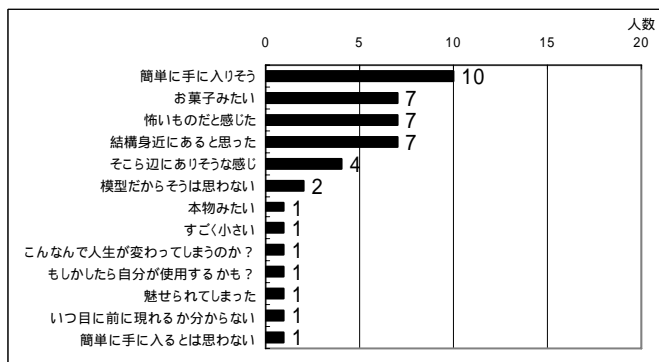


図3-8 事後(授業)アンケート「思った(思わなかった)理由」

* 手記と薬物標本についての学習カードの記述の分析

(学習カードの質問内容が、手記と薬物標本について合わせて聞いているため、上記の視点、ア、イ両方に関わる内容として、*として示した)

薬物乱用経験者の手記と薬物標本を使用した授業(2時間目)の終了直後に記入した学習カードの記述内容(感想)図3-9、表3-5を見ると、手記に関する内容では恐ろしさや害に関する知識について多く書かれていた。薬物標本に関する内容では直前に学習した薬物の種類や名称と結びつけて、その害や恐ろしさについて記述してあったり、お菓子のような外見やそれにより様々な悲劇が引き起こされることについての驚きについて書かれていた。

このような結果から、手記と薬物標本の使用が、知識に実感を伴わせることに有効であったと考えられる。

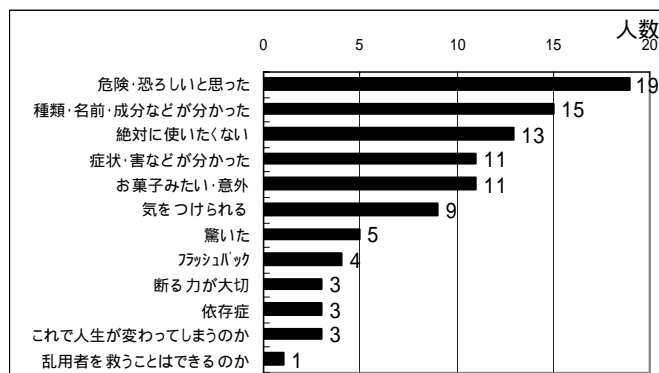


図3-9 学習カード「2時間目の感想」

表3 - 5 2時間目の学習カードの記述内容（抜粋）

薬物の乱用は人が人でなくなると思った。サンプルを見て気をつけられると思った。
薬物の恐ろしさや体験者の話、サンプルなどがあってとても興味深かった。でも背筋がゾッとした。
薬物が身体に及ぼす影響によって心にも害が及ぶこと。それによって人生が大きく変わってしまうということがよく分かった。
薬物の危険さと怖さがとてもよく分かりました。だから薬物は使用してはいけないことが改めて分かりました。今日も楽しかったです。あと驚いたのは種類によってお菓子のようなものがあることです。
友達と話し合ったりして楽しく受けられた。乱用生徒の手記を読んで、薬物は怖いものだと思う。乱用生徒を救うことはできるのですか？
サンプルとかがあって分かりやすかったです。呼び方とかも知ったので騙されないようにしたいです。薬物は改めて怖いものだと思います。
今日も夢中になって勉強できてよかった。MDMAはお菓子みたいなので気づかず貰いそう……。でも実物を見たので誘われても逃げれる。
手記を読んで思っていた以上に悪い事なんだと分かった。サンプルがあって分かりやすかった。
サンプルを見てこれで人の一生が変わるなんて驚きだった。
とても薬物は怖いと分かりました。フラッシュバックが起こるのも分かった。色々な薬物がいっぱいあった。お菓子みたいなやつもあった。硬いやつもありどうやって食べるのだろうと思った。でも薬物の恐ろしさを知った。

ウ ブレインストーミング・カードによる分類が、薬物乱用等の要因について、実感を深める効果があったか

(ア) 事後（授業）アンケートの5段階評価及び記述の分析

単元終了後に行った教師の指導に対するアンケート、「模造紙を使った取り組みでは、薬物乱用等の要因についての考えを深めることができましたか？」という問いに対して、「すごくできた」「できた」と答えた生徒は37人中34人で、92%であった。

(図3 - 10)ブレインストーミングでは、個々で考えつく要因をゲーム性を取り入れることによって、より多くのことを書き出すことにつながったと考える。また、カードによる分類によって班員みんなで考え意見を言い合うことが思考を深め、自分の事として考えていくことにつながったと考える。

この手法の生徒による5段階評価の平均は4.3であった。

「よくできた」「できた」と答えた理由は「色々な要因がわかった」と

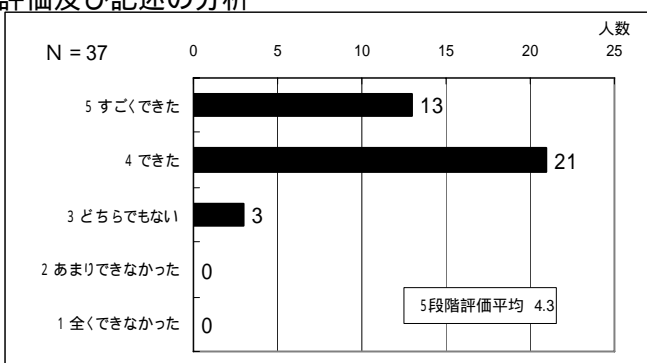


図3 - 10 事後（授業）アンケート「模造紙を使った取り組みでは、薬物乱用等の要因についての考えを深めることができましたか？」

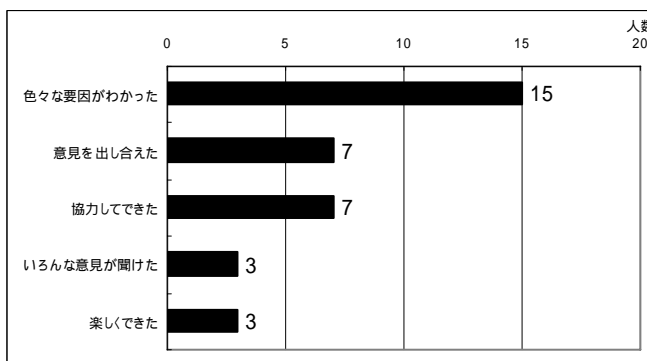


図3 - 11 事後（授業）アンケート「できた理由」

いう回答が最も多く、この答えから実感の深まりは読み取れなかったが、理解の深まりという点では有効であったと思われる。

(イ) 付箋の記述内容の分析

ブレインストーミングによって出された要因をカードによる分類により、「心の問題」「社会の問題」「その他」と分けたが、心の問題に関するカードが総計 165 と圧倒的に多かった。

今回の学習では、このブレインストーミング及びカードによる分類の後に心の問題を取り上げたため、個々の心の問題が表 3 - 6 のように数多く出されたことは、心の問題が重要であることを気付かせるのに十分な成果があった結果であると考えられる。

また、心の問題が多く出されたことは、イメージ化が図られ自分のこととして捉えることができた結果とも捉えることができると思う。

表 3 - 6 ブレインストーミングで出された要因の種類と数

	心の問題	社会の問題	その他
要 因	興味・好奇心 (39)	友達・先輩・親に誘われて(30)	仲間がほしい (1)
	スルス・イイ・投げやり (26)	友達・大人の真似 (15)	痩せるため(9)
	カッコつけ (23)	周りがやってる (12)	知識・理解不足 (8)
	楽しそう・おいしそう(17)	CMやメディアの影響 (4)	何となく (6)
	遊び半分・軽い気持ち (15)	身近・簡単に手に入る(4)	楽になる (1)
	1 回ぐらいなら (13)	いじめられて (3)	受験勉強 (1)
	気晴らし・現実逃避 (10)	脅されて (2)	ダメだと分かっているけど (1)
	断れない (6)	町で買わされた (1)	
	スッキリする・気分高揚 (5)		
	心が弱い (3)		
	暇だから (3)		
	反抗 (2)		
	どんな感じが知りたい (2)		
	人生設計が甘い (1)		
計	165	71	27

(ウ) ブレインストーミング・カードによる分類を行っている際の V T R 映像の分析

表 3 - 7 は、カードによる分類作業中の主な発言を集め、表した表である。

ブレインストーミングでは各自が思いつくままに要因を書き出していた。その際に声を出しながら行っている班では、その意見に触発されて要因を数多く出していた。

カードによる分類では、出された要因を班のリーダーを中心に意見を出し合いながら分類していた。どちらとも取れるようなものや微妙なものについては、活発な意見交換もあり、思考の深まりが見られた。

表3 - 7 カード法による分類の作業中の主な発言

ストレス系は全部心じゃない？
「嫌なことから逃げたい」は、逃げたいのは心だけど、その嫌なことは社会？
「おいしそう」っていうのも、周りに引きずられてる
「1回ぐらいなら」は、心が弱いから
「カッコいい」は？
私で言うと、「好奇心」は心
「好奇心」はメディアの影響も受けてるから社会でもいいんじゃない？
「イライラ」は周りの影響かな？心が弱いからかな？
「周りが吸ってる」は社会？ どちらとも取れる。

(エ) 学習カードの記述の分析

図3 - 12は、3時間目の学習ノート
の記述(感想)である。記述には、
協力して取り組んだり活発な意見交
換ができたといった活動そのものに
関する内容と、薬物等に手を出して
しまう要因についての記述が多く、
特に心の問題が重要であることを理
解することができたと思われる内容
も多く書かれており、自分のことと
して捉えることができたと判断でき
る生徒が多くいた。(表3 - 8)

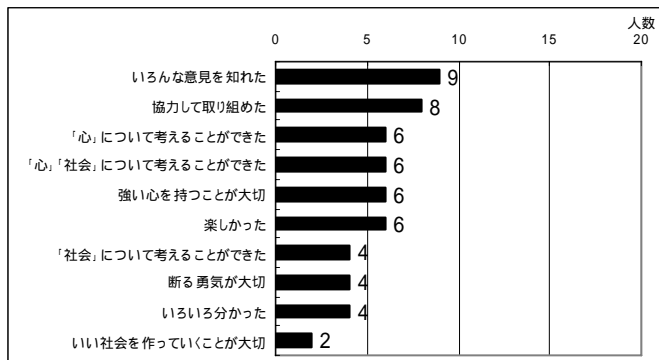


図3 - 12 学習カード「3時間目の感想」

表3 - 8 3時間目の学習ノートから(抜粋)

今日の授業で実際に薬に手を出してしまった人のことが聞けたのでよかった。とても分かりやすかったし内容が理解することができた。始める理由は色々あるけど心の問題が一番多かったしやっぱりそう思う。
授業を受けて色々な理由を知ることができた。心の問題が一番多かった。その通りだと思った。
嫌なことがあってもタバコは吸いたくない、酒は飲みたくない、薬物はやりたくないです。心を大切にしたいです。
色々学べた。今までタバコや薬物は本人が悪いと思っていただけで社会のせいでもある。
自分が直していかなければいけない部分と(ストレスとか)、社会全体で直していかなければいけない問題(CMとか薬物を売る人とか)があるということがこの勉強で分かった。
やっぱり周りの人(大人)とかがやってはいけない世界を作らなければいけないと思った。
お店などでは未成年の酒・タバコの販売はしていないのになぜ誰でも買える自販機が置いてあるのが疑問です。
何で薬物は簡単に手に入ってしまうのですか？薬物を使うと精神がダメになってしまうので手に入らないようにすることが大切。

「視点（２）薬物標本の使用・薬物乱用者の手記の使用や参加型学習の導入により、知識に実感を伴わせることができたか」についての考察

薬物乱用経験者の手記を読んで、37人中36人の生徒が恐ろしさや悲惨さを感じ取っているということが読み取れる記述があった。薬物そのものへの恐ろしさだけでなく、後戻りできないことへの恐怖や家族や周囲の者の悲しみなども、文面から読み取ることができた生徒もいた。実際に薬物を使用した人の体験や気持ちが書かれた文を読むことはほとんどの生徒にとっては初めてであり、驚きと共に恐ろしさや悲惨さを実感できたと考えられる。

薬物標本の使用に関しては、37人中34人の生徒に何らかのインパクトを与えた。「お菓子みたい」「そこら辺にありそう」といった感想が多く、薬物乱用経験者の手記とは違い、薬物標本からは恐ろしさ等よりも「こんな物が薬物なの？」といった意外性を受けた生徒が多かった。それだけに、いつ自分の目の前に現れてもおかしくないといった意味も含め、薬物の存在に対して実感を持たせることに効果があったのではないかと思われる。

参加型学習では、まずブレインストーミングを行い薬物等に手を出してしまう理由を挙げ、次にそれらをカードによる分類で「心の問題」・「社会の問題」・「その他」にグループ分けする作業を行った。ブレインストーミングの場面では、数を競い合うという設定もあり積極的に意見が出された。その中で、「自分だったら～」と、自分に置き換えて考えている発言もあった。カードによる分類の場面では、一人一人が出した意見を班員全員で共有しながら考えていく姿が多く見られた。参加型学習を取り入れたことにより、思考の深まりを促すと共に、様々な事例を自分の事として捉えてみることで、知識に実感を伴わせることにつながったと考える。

(3) セルフエスティームを大切にしたい学習により、行動化への意欲、態度の育成につなげることができたか

ア 自分カードが、セルフエスティームを高めることに効果があったか

(ア) 事後(授業)アンケートの5段階評価及び記述による分析

単元終了後に行った教師の指導に対するアンケート「自分カードでは、自分の良い所や友達の良い所を発見することができましたか?」という問いに対して、「すごくできた」「できた」と答えた生徒は37人中36人で、97%であった。(図3-13)

また、30人以上が自分や友達の良い所に気が付いたり新しい発見があったと答えており、(図3-14)自分の良さに気が付き、自分を好きになるきっかけとなったと考える。また、この手法の生徒による5段階評価の平均は、4.4であった。

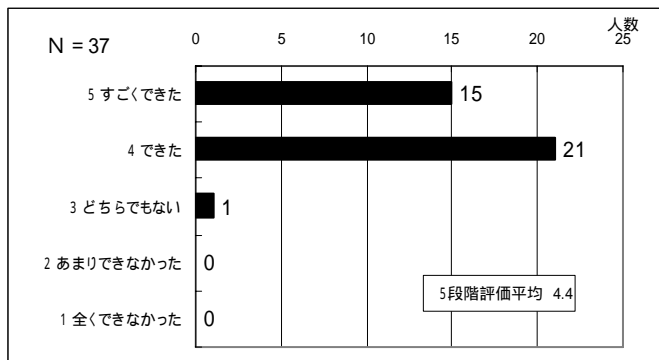


図3-13 事後(授業)アンケート「自分カードでは、自分の良い所や友達の良い所を発見することができましたか?」

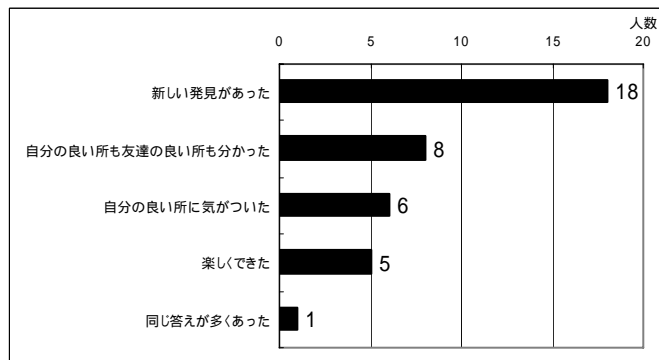


図3-14 事後(授業)アンケート「できた理由」

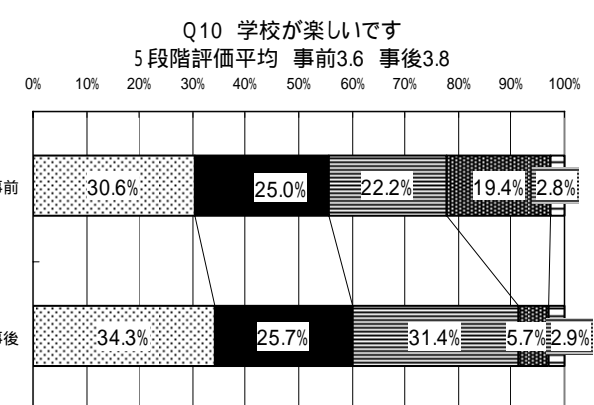
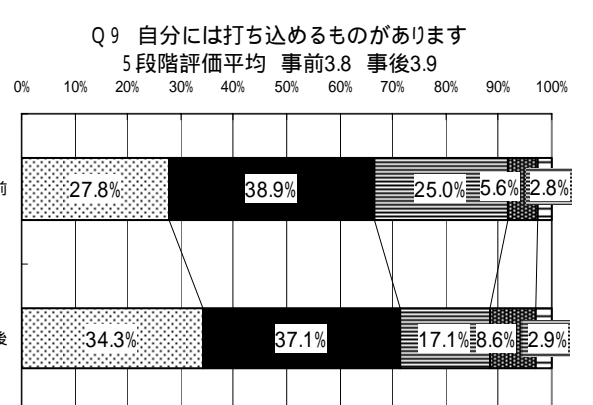
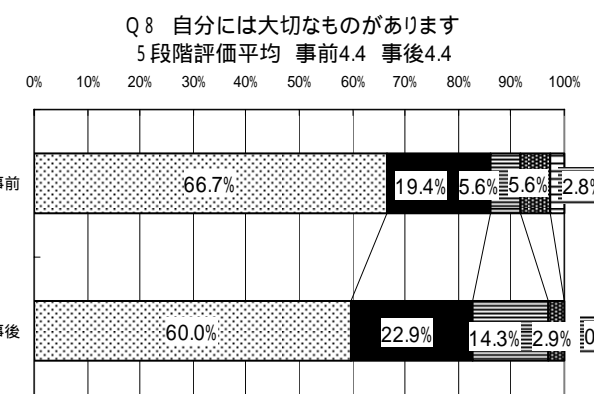
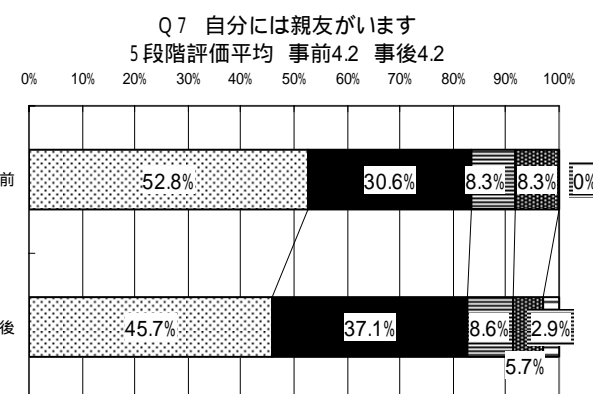
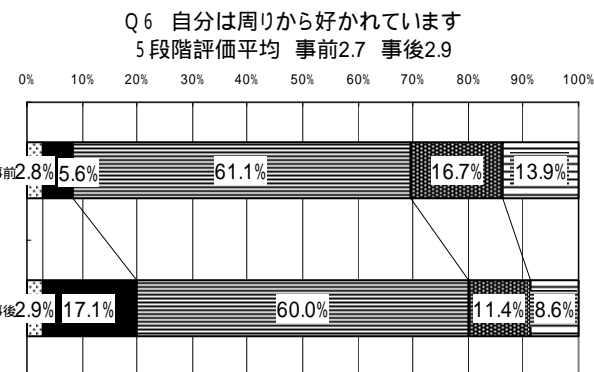
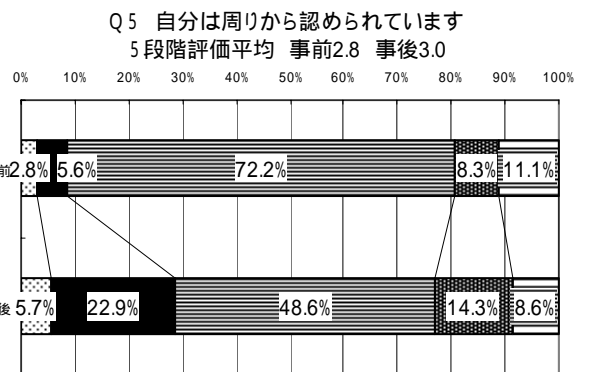
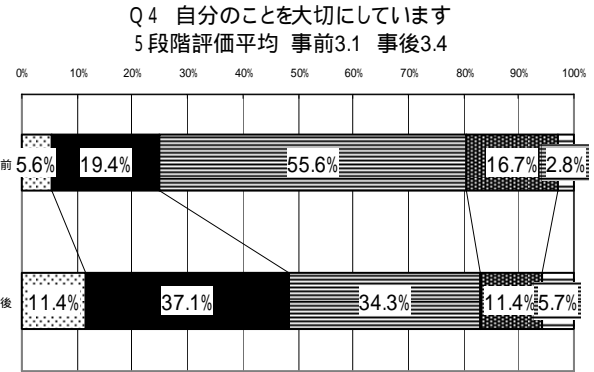
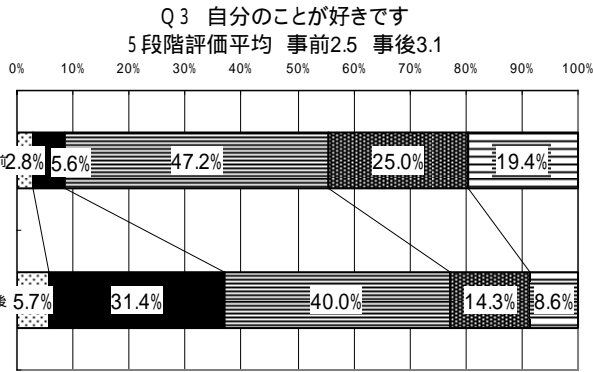
(イ) 事前・事後アンケートのセルフエスティームを測る項目の比較

図3-15は、単元の事前・事後に行ったアンケートのセルフエスティームを測る項目(Q3~Q10)の結果である。

8つの項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」を合計した上位部のパーセンテージが増えている。特にQ3の「自分のことが好きです」の問いでは、「よくあてはまる」「あてはまる」の上位部が28.7ポイント増加し、「あてはまらない」「まったくあてはまらない」の下位部が21.8ポイント減少した。人数では上位部は10人増え、下位部は8人減った。Q4の「自分のことを大切にしています」の問いでは、上位部は23.5ポイントの増加(8人)、下位部は2.4ポイントの減少(1人)となった。Q5では、上位部は20.2ポイント増加(7人)したが、下位部が3.5ポイント増加(1人)した。Q6は、上位部は11.6ポイントの増加(4人)、下位部は10.6ポイントの減少(1人)であった。Q9については、上位部、下位部ともに1人の増加であり、特に変化は見られなかった。Q10も上位部は1人の増加であったが、下位部は13.6ポイントの減少(5人)となった。

一方、Q7の「自分には親友がいます」の問いでは、上位部のパーセンテージが83.4%から82.8%へと減少(1人)し、下位部では変化はなかった。また、Q8の「自分には大切なものがあります」の問いでは、上位部は3.2ポイント減少(2人)となり、下位部は5.5ポイントの減少(2人)となった。

上位部のパーセンテージが増加しなかった項目も一部あったが、全体的に判断すると、個々のセルフエスティームを高めることに有効であったと考えられる。



5 よくあてはまる
 4 あてはまる
 3 わからない
 2 あまりあてはまらない
 1 全くあてはまらない

図3 15 事前・事後アンケート（セルフエスティームを測る項目）の比較

(ウ) 学習カードの記述による分析

図3-16は、4時間目に行った自分カード実習の感想である。

自分の良い所を発見したり、友達から良い所を書かれ嬉しかった、という生徒が多かった。そこから、自分や友達を大切にしたい気持ちへとつながられた表現を書いていた生徒は約8割ほどであった。(表3-9)

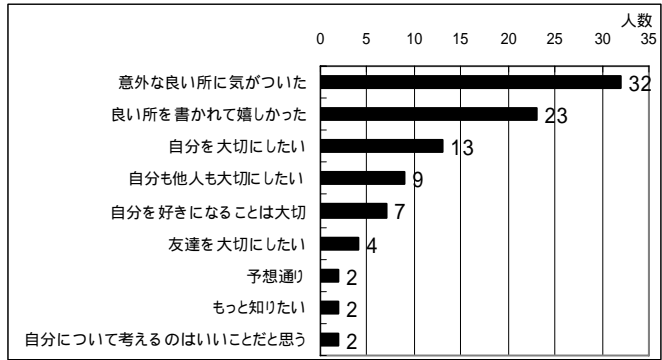


図3-16 自分カード「4時間目の感想」

表3-9 4時間目の学習カードから(抜粋)

友達を大切にしようと思った。
周りからはどう思われているか分からなかったけど今回やってみて自分の事が分かった。まじめに見られている。「優しい」が多かった。なので自分を大切にしていきたいです。
今までノリがいいなんて言われた事がなかったので驚きました。みんなの考える幸せが分かってとても楽しかったです。やっぱりこういったことの中には「自分を好きになる」というのが改めて分かりました。
自分が面白く思われていること。意外なことを思われていてちょっと嬉しかった。
自分は良い人じゃんみたいな
自分でポジティブだなあと思った。みんなの中で僕は明るくよくしゃべる人というのがよく分かりました。自尊感情のことについてよく考えていこうと思います。
今日やった授業は「周りの人から見た自分のいい所」だったけど思ってたより早く書いてくれたのでとても嬉しかったです。自分に自信がなくて落ち込んでいる人とやるとその人も自信がもてると思います。
責任感がある・優しい・明るいと思われていたので嬉しかった。自分を好きになる事はとても大切な事だと分かりました。今日思った事を続けられるようにその行動をとっていこうと思います。
まじめと思っている人が多かった。普段の取り組みについて書いてあった。意外と元気と思ってくれる人がいた。周りの人が自分のことをどう思っているか分かってよかった。自分、そして他の人々も大切に生きていくべきだと感じた。
今日は友達の見解を聞いて自分はこういうふうに使われているんだと思いました。笑顔がかわいいか友達思いとか書かれてとても嬉しかったです。いつもニコニコしているとも書いてありました。これからもいいふうに使われる人になりたいし人の役に立ちたいと思いました。
自分が思っていなかったことがあった。自分を大切にすれば軽い気持ちで薬物などを始めなくなると思う。自分の幸せを願うなら、人の幸せも願う事も必要なんだと思いました。

イ セルフエスティームを大切にしたい学習が、薬物乱用等を行わない意欲・態度の育成に効果があったか

(ア) 学習カードの記述による分析

4時間目の学習カードの、「薬物等に手を出してみたいと思いますか?」という問いに対して全員が否定の回答をしていた。(図3-17)理由としてほとんどの生徒が「自分を大切にしたい」という旨の表現を書いていた。(図3-18)

また、感想欄に書かれている表現からも、「自分を大切にしていこう」という意志を感じ取れるものが多かった。(表3-10)

この結果から、薬物等に手を出さないという意欲・態度の育成に、セルフエスティームの大切さに気付く(高める)自分カードの取り組みを行ったことは、効果があったと考えられる。

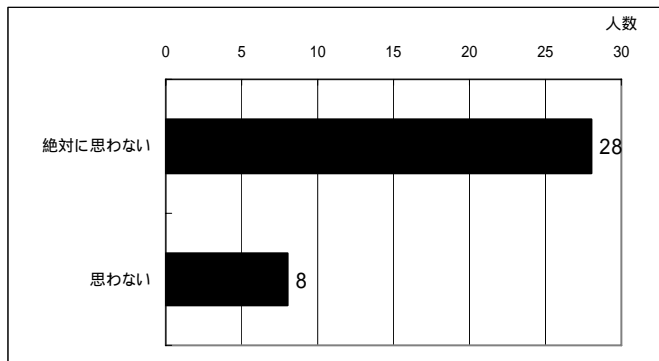


図3-17 学習カード「薬物等に手を出してみたいと思いますか?」

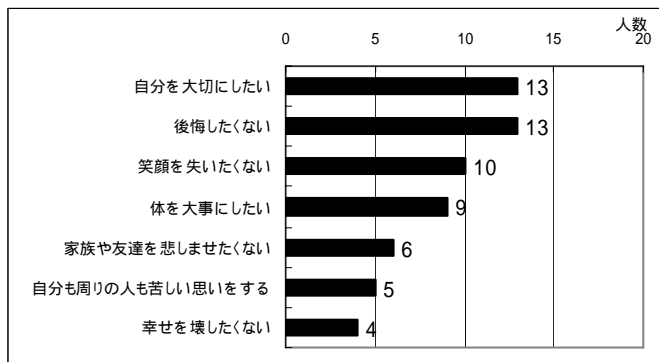


図3-18 学習カード「思わない理由」

表3-10 5時間目の学習カードから(抜粋)

大切なものは、自分の心が一番大切だと思った。
色々な考え方もあったけどやっぱり自分を大切にすることを強く持つということは大切だと思いました。
笑顔で生きていくことがどれほど大切か分かり、これから笑顔で生きていこうと思います。そして笑顔がなくなる薬物などには手を出したくありません。
薬物等をしないためには自分の心をしっかりと持ちダメなものはダメだと言えるようにすることなどをした。自分が大切だから薬物は絶対やらない。
薬物等を使わないよう自分や友達を大切にすることを大事なんだなと思った。薬物はゼツタイ使いません。
とてもいい授業でした。これを他の人にも伝えて、少しでも多くの人が幸せになってほしいです。
薬物に手を出す人は自分が原因だと思う。そういう人は自分が好きになれなかったり意思が弱いからだと思いました。私は自分を好きになって強い意志を持っていこうと心がけていきます。
今日は考えることがたくさんあった。最後に先生が言った、「自分のために泣いてくれる人がいる」という言葉が胸に響いた。それで私は薬物に手を出したくないと強く思った。みんなも同じだと思う。
最後の最後で先生が言った、笑顔でいれば悪いものは近寄ってこない子ということをいつも心に入れてこれからの生活で気をつけていこうと思います。薬物が近寄ってこないようにずっと笑ってたいです。

(イ) 事前・事後アンケートの比較

図3 - 19(次ページ)は、たばこ・酒・薬物についてそれぞれ「手を出してみたいか」及び「手を出したいと思わない理由」についての質問を単元の事前・事後に行い、比較したものである。たばこ・酒・薬物ともに、「手を出してみたいか」の質問に対し事後アンケートにおいて「全くあてはまらない」と答えた生徒が増え、「よくあてはまる」と答えた生徒は0人となった。

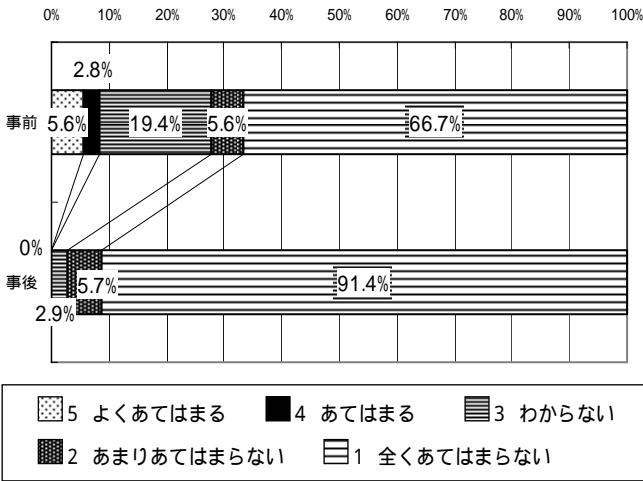
たばこについては、「全くあてはまらない」が66.7%から91.4%に増えた。「全くあてはまらない」「あてはまらない」を合わせると、24.8ポイントの増加となった。酒では、「全くあてはまらない」「あてはまらない」と答えた生徒のパーセンテージが33.3%から65.7%と、32.4ポイント増加した。また、「よくあてはまる」「あてはまる」の回答は、47.2%から5.7%へと41.5ポイント減少した。5段階評価平均で見ると、事前は3.2であったが、事後では1.9となった。薬物においては、全員が「全くあてはまらない」と回答した。

理由としては、たばこ・酒については「体に悪い」と答えた生徒が増えた。薬物では「体に悪い」は減り「正常でなくなる」と答えた生徒が増え、心や精神面での害を理由の一番目として挙げている。セルフエスティームに関するものとしては、「自分を大切にしたい」といった直接的な表現のものはないが、「体に悪い」「正常でなくなる」「後悔する」等、自分を大切にする旨の理由が増えた。

図3 - 20は、「友達が喫煙・飲酒・薬物乱用をしていたらとめると思うか」の問いである。たばこでは「よくあてはまる」「あてはまる」の上位部が16.7%から54.2%と37.5ポイント増加し、「あてはまらない」「全くあてはまらない」の下位部が30.6%から5.7%へと24.9%減少した。酒については、上位部が37.2ポイントの増加、下位部が27.7ポイントの減少となった。薬物については、上位部は24.4ポイントの増加、下位部は19.3ポイントの減少であった。いずれも上位部が増加し、下位部が減少した。さらに、全ての質問において、「全くあてはまらない」と答えた生徒が0人になった。また、止める理由では、友達のことを心配する回答が増えた。自分を大切にする気持ちと同時に友達も大切にすることを理解した生徒が増えたと判断できる。

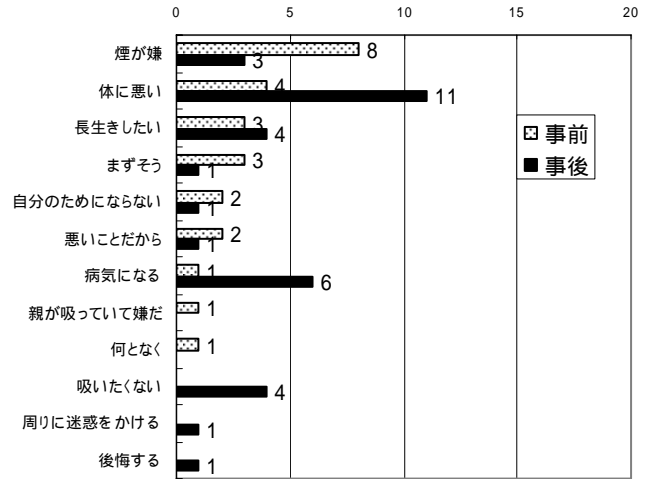
図3 - 21の「どうすれば喫煙・飲酒・薬物乱用といった行動をとらなくなるか」の質問の回答は、事前アンケートでは「分からない」と答えた生徒が多かったが、事後ではいずれも0人となり、「知識を身に付ける」と答えた生徒が多くなった。Q30では、事後アンケートにおいて「自分を大切に思う」の回答が最も多く、薬物乱用の抑止として、セルフエスティームの大切さに気づく取り組みを取り入れたことは効果があったと考えられる。

Q15 たばこを吸いたいです
5段階評価平均 事前1.8 事後1.1

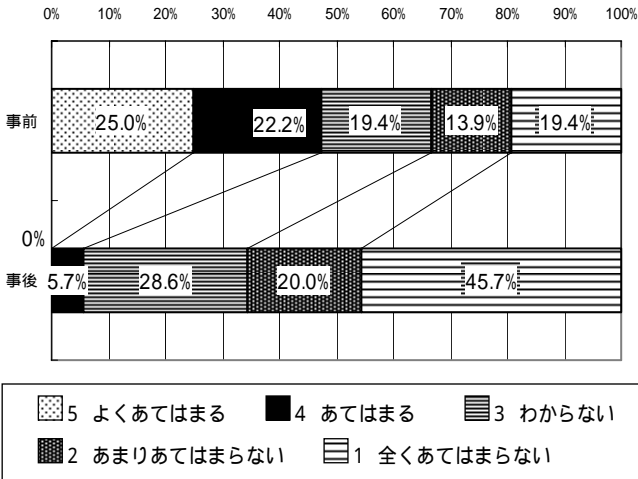


吸いたくない理由

人数

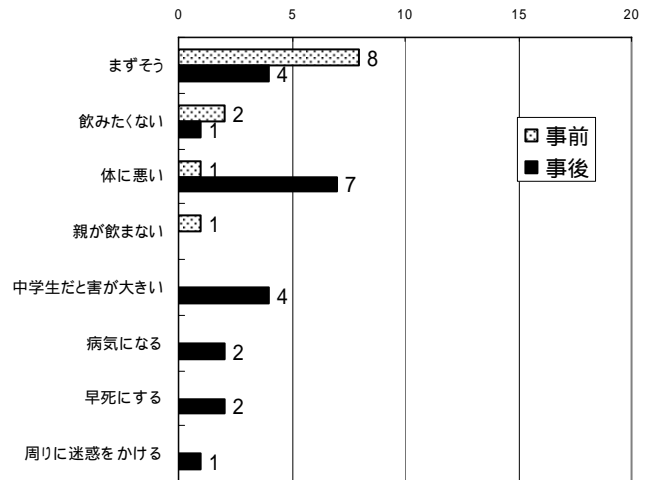


Q21 酒を飲みたいと思います
5段階評価平均 事前3.2 事後1.9

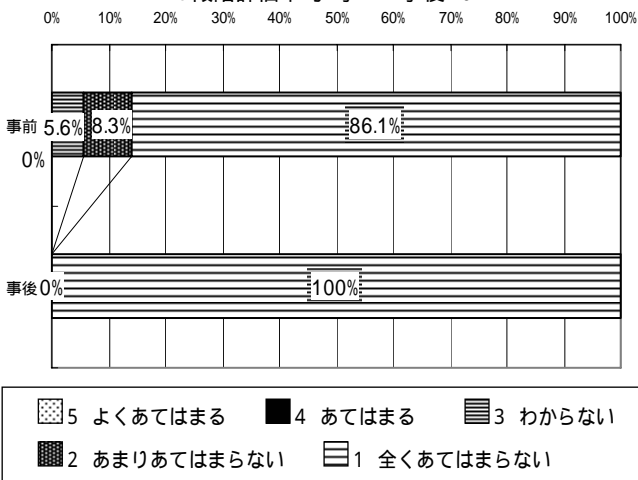


飲みたいと思わない理由

人数



Q27 薬物を使用したいと思います
5段階評価平均 事前1.2 事後1.0



使用したいと思わない理由

人数

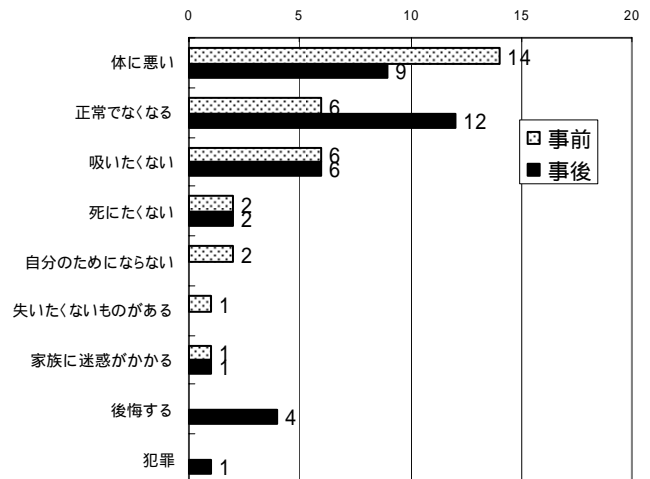
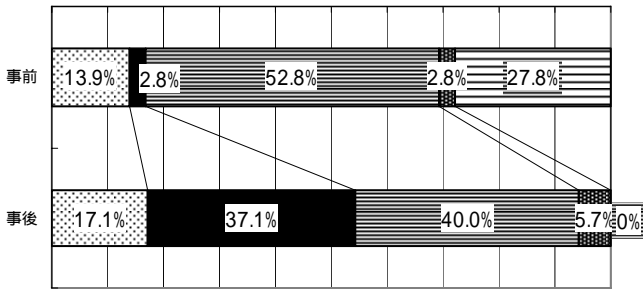


図3-19 事前・事後アンケート（薬物等への興味に関する項目）の比較

Q17 友達がたばこを吸っていたらとめると思います
5段階評価平均 事前2.7 事後3.7

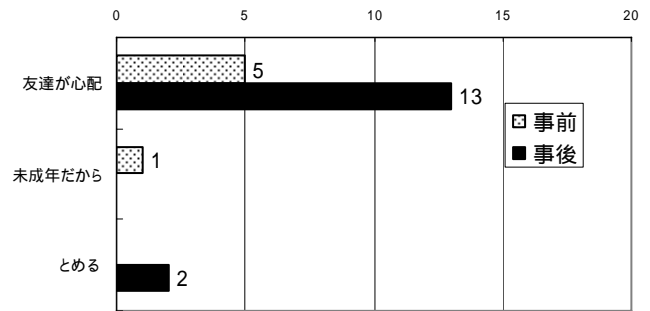
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



5 よくあてはまる 4 あてはまる 3 わからない
2 あまりあてはまらない 1 全くあてはまらない

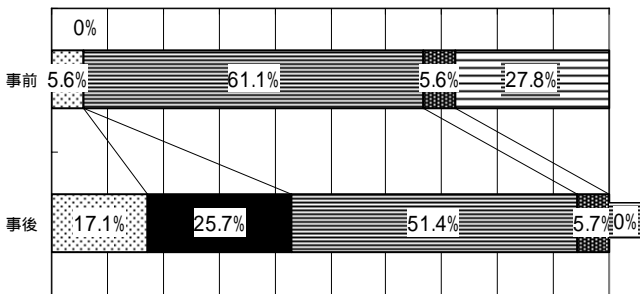
とめる理由

人数



Q23 友達が酒を飲んでいたらとめると思います
5段階評価平均 事前2.5 事後3.5

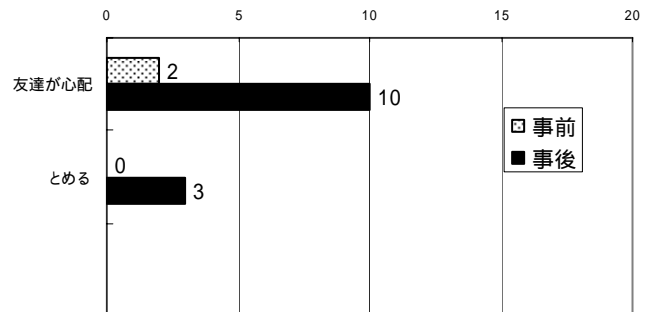
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



5 よくあてはまる 4 あてはまる 3 わからない
2 あまりあてはまらない 1 全くあてはまらない

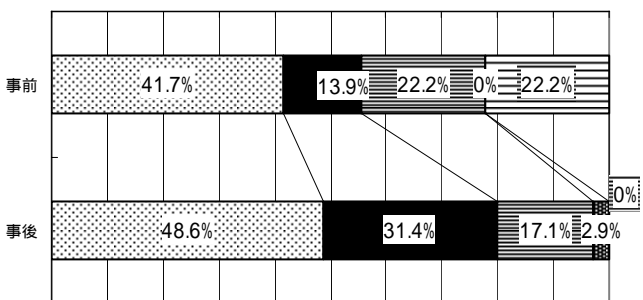
とめる理由

人数



Q29 友達が薬物を使用していたらとめると思います
5段階評価平均 事前3.5 事後4.3

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



5 よくあてはまる 4 あてはまる 3 わからない
2 あまりあてはまらない 1 全くあてはまらない

とめる理由

人数

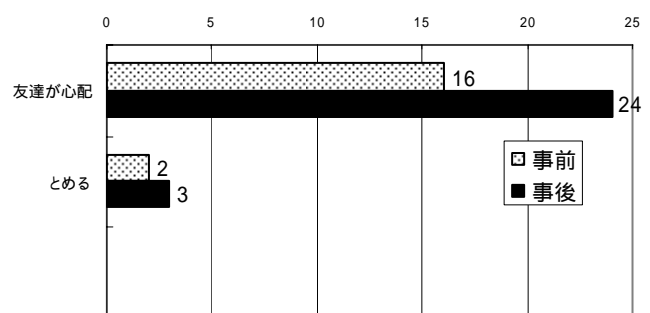
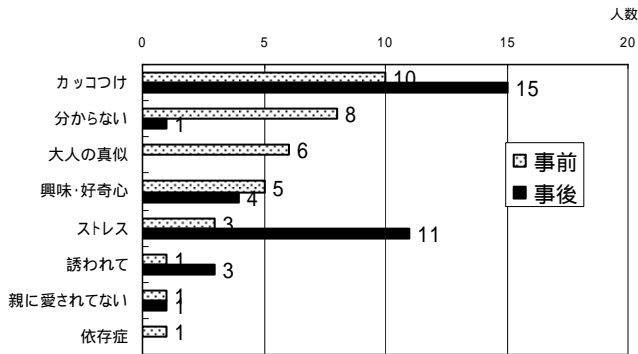
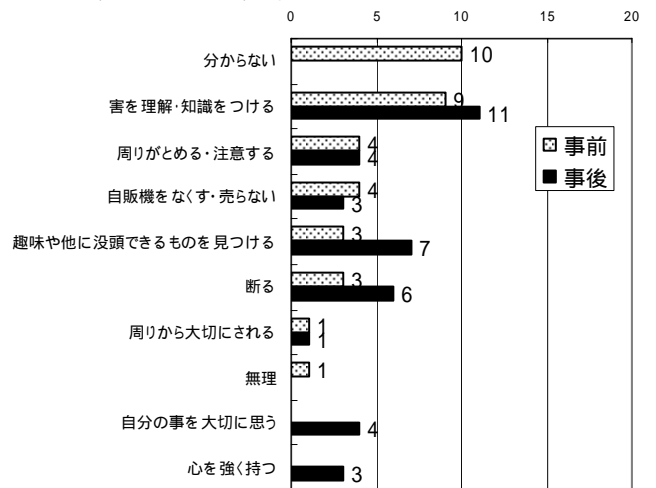


図3-20 事前・事後アンケート(薬物等に手を出している友人をとめると思うかについての項目)の比較

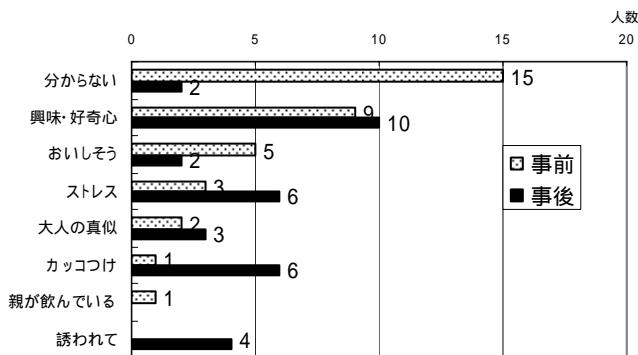
Q 18 中学生でたばこを吸う人はどんな理由で吸っていると思いますか？



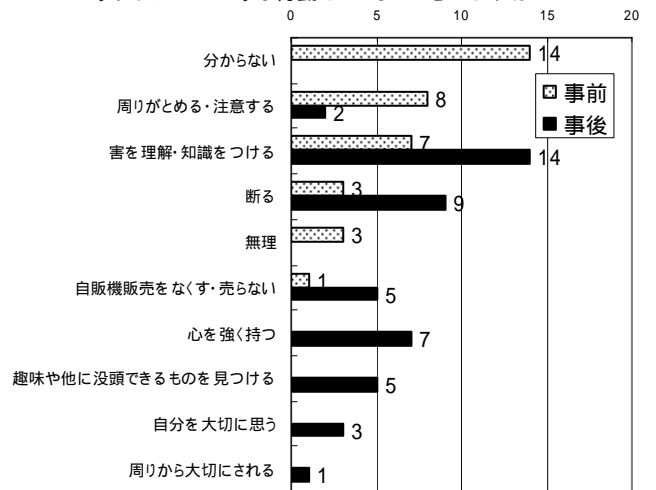
どうすればそのような行動をとらないと思いますか？



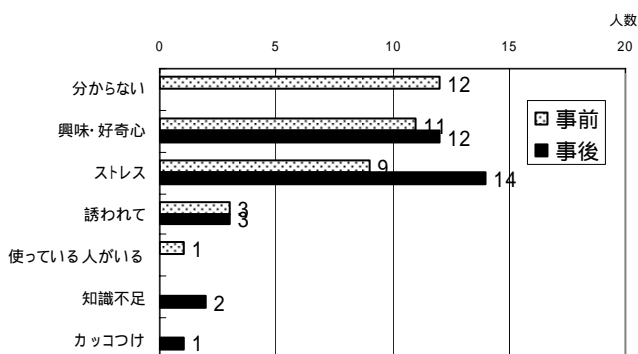
Q 24 中学生で酒を飲む人はどんな理由で飲んでいると思いますか？



どうすればそのような行動をとらないと思いますか？



Q 30 中学生で薬物を使用する人はどんな理由で使用していると思いますか？



どうすればそのような行動をとらないと思いますか？

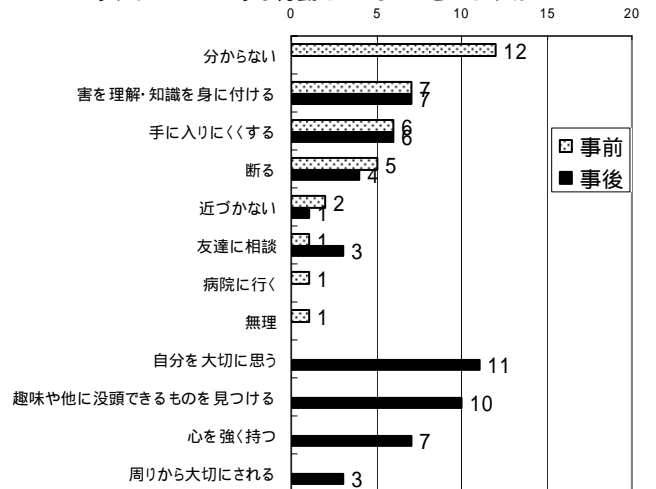


図3 - 21 事前・事後アンケート（薬物等に手を出す理由についての項目）の比較

(ウ) 感想文の記述内容による分析

表3 - 11 は、単元終了後に書いた生徒の感想文で、実感的で価値的なわかり方（「薬物は怖いなと思った」「意外と身近にあると思った」「～の勉強はとても役に立つと思います」等）と、実践への意欲がそそられるようなわかり方（「～したくないと思います」「断りたいと思います」「注意できるようにしたいと思います」等）をしていると取れる記述をした人数をまとめたものである。（参考：p11）75%の生徒から、実感的で価値的なわかり方をしていると取れる記述があった。そして、ほぼ全員の作文から、酒・たばこ・薬物に手を出したくないという意欲を感じ取ることができた。（表3 - 13）

また、毎時間の学習カードの記述から、実感的なわかり方・実践への意欲がそそられるようなわかり方をしていると取れる記述をした生徒の人数を、表3 - 12 にまとめた。全員の生徒が実感的で価値的なわかり方及び実践への意欲がそそられるようなわかり方をしていると取れる表現を記述している。さらに、「絶対に手を出したくない」「絶対に断る」等の強い意志を感じ取れる記述をした生徒は、94.4%であった。

学習カードの記述・単元終了後の感想文ともに、自分を大切に思ったり、家族を悲しませたくないといった表現が多く見られ、セルフエスティームを大切にしたい学習が薬物等に手を出さないという行動化への意欲と態度の育成につながったと考える。

表3 - 11 「実感的で価値的なわかり方」「実践への意欲がそそられるようなわかり方」をしていると取れる記述をした人数（単元を終えての感想文から）

わかり方のカテゴリー	人数	%
実感的で価値的なわかり方 「薬物は怖いなと思った」「意外と身近にあると思った」 「～の勉強はとても役に立つと思います」等	27	75.0
実践への意欲がそそられるようなわかり方 「～したくないと思います」「断りたいと思います」 「注意できるようにしたいと思います」等	34	94.4

表3 - 12 「実感的で価値的なわかり方」「実践への意欲がそそられるようなわかり方」をしていると取れる記述をした人数（学習カードの記述から）

わかり方のカテゴリー	人数	%
実感的で価値的なわかり方 「薬物は怖いなと思った」「意外と身近にあると思った」 「～の勉強はとても役に立つと思います」等	36	100
実践への意欲がそそられるようなわかり方 「～したくないと思います」「断りたいと思います」 「注意できるようにしたいと思います」等	36	100

表 3 - 13 単元を終えての感想文から

<p>ニコチンやタール&一酸化炭素などの有害物質が含まれていることや急性影響があることを授業でやってとても喫煙は危険だと思いました。あと薬物では使うとやめられなくなる状態になり薬物がなきゃいけない生活の話までしてくれてとても怖いと思いました。<u>どれも病気になることばかりで良いことなんて全然な</u> <u>思いました。なので私は何があっても使いきないです。</u></p>
<p>授業の言葉一つ一つが生きていくためにとても大事な言葉でした。<u>私はこの授業を受けて、これから人生</u> <u>に役立てていこうと思います。そして、「笑顔」を忘れないようにしようと思いました。</u></p>
<p><u>絶対にこれから手を出してはいけな</u><u>い</u><u>と思</u><u>い</u><u>ま</u><u>し</u><u>た</u><u>。</u>特に使った本人だけでなく、周りの人達をも悲しま せてしまうのは決して良くないと思いました。自分のストレスやイライラなどのせいで周りを悲しませるこ とをせず<u>自分のやりたいことを見つけるなどして解決していくと良いのだ</u><u>と思</u><u>い</u><u>ま</u><u>し</u><u>た</u><u>。</u></p>
<p>手記を読んで、「<u>麻薬は人を不幸にするんだなあ</u>」と思わされました。警察に会いに来た親と面会したと きの悲しい気持ちはどうしようもないくらい苦しいと書かれていました。僕はこんな苦しい思いをしたくな いので、<u>絶対に絶対に薬物乱用をしないようにしていこう</u><u>と思</u><u>い</u><u>ま</u><u>す</u><u>。</u></p>
<p><u>意外と薬物なども身近にあるものだなあ</u><u>と思</u><u>い</u><u>ま</u><u>し</u><u>た</u><u>。</u>お酒やたばこもいつ周りから誘われることがある か分からないから、<u>ダメなものはダメだ</u><u>と言</u><u>え</u><u>る</u><u>よ</u><u>う</u><u>に</u><u>す</u><u>る</u><u>こ</u><u>と</u><u>、</u><u>そ</u><u>し</u><u>て</u><u>自</u><u>分</u><u>も</u><u>薬</u><u>物</u><u>や</u><u>酒</u><u>・</u><u>た</u><u>ば</u><u>こ</u><u>に</u><u>手</u><u>を</u><u>出</u><u>さ</u><u>な</u><u>い</u><u>よ</u><u>う</u><u>に</u><u>す</u><u>る</u><u>こ</u><u>と</u><u>が</u><u>大</u><u>事</u><u>だ</u><u>と思</u><u>い</u><u>ま</u><u>し</u><u>た</u><u>。</u></p>
<p>「<u>笑顔の大切さ</u>」がとてもよく分かった。今、私には信頼できる家族や信頼できる友達がたくさんいるの で、一日に最低5回は笑っています。今日習ったように薬物は全てのを失うので<u>今この笑顔を失いたく</u> <u>ない</u><u>と思</u><u>う</u><u>か</u><u>ら</u><u>絶対に薬物には手を出したくないです。</u></p>
<p>お酒やタバコは、スーパーやコンビニなどすぐ近くにあるから、自分を強く持とうと思った。自尊心と、 他人を思いやる気持ちがとても大切だということを知ることができた。<u>友達のこと</u><u>も</u><u>、</u><u>自</u><u>分</u><u>の</u><u>こ</u><u>と</u><u>も</u><u>大</u><u>切</u><u>に</u> <u>し</u><u>て</u><u>、</u><u>薬</u><u>物</u><u>な</u><u>ど</u><u>の</u><u>誘</u><u>惑</u><u>に</u><u>勝</u><u>つ</u><u>強</u><u>い</u><u>精</u><u>神</u><u>力</u><u>を</u><u>持</u><u>ち</u><u>、</u><u>自</u><u>分</u><u>を</u><u>コ</u><u>ン</u><u>ト</u><u>ロ</u><u>ール</u><u>す</u><u>る</u><u>こ</u><u>と</u><u>を</u><u>心</u><u>が</u><u>け</u><u>た</u><u>い</u><u>。</u></p> <p><u>笑顔を忘れず、楽しい学校生活を送って</u><u>生</u><u>き</u><u>た</u><u>い</u><u>。</u>そして、この世から「薬物」というくだらないものが 消えてほしい、と強く願う。</p>
<p>これから先、<u>どんな苦しいことがあっても、薬物には手を出さないと</u><u>思</u><u>う</u><u>。</u>それで、そんな苦しいときに こそ、<u>笑顔を忘れないように</u><u>し</u><u>た</u><u>い</u><u>。</u><u>他</u><u>の</u><u>人</u><u>に</u><u>も</u><u>、</u><u>私</u><u>が</u><u>学</u><u>ん</u><u>だ</u><u>こ</u><u>と</u><u>を</u><u>伝</u><u>え</u><u>て</u><u>い</u><u>こ</u><u>う</u><u>と思</u><u>う</u><u>。</u>そして、少しで も多くの人が幸せになれることを願う。</p>
<p>薬物をやったことのある人の話をしてくれたので薬物の恐ろしさがとてもよくわかった。「自分のために 泣いてくれる人がいる」という言葉が印象に残りました。なので、<u>私は絶対に薬物はやりたくないと</u><u>思</u><u>い</u><u>ま</u><u>し</u><u>た</u><u>。</u></p>
<p><u>このべんきょうは、人生にものすごくやくだつ</u><u>と思</u><u>う</u><u>。</u>これからこのべんきょうをいかしていきたい。</p>

下線は、「実感的なわかり方」「実践への意欲がそえられるようなわかり方」をしていると取れる記述

「検証(3)セルフエスティームを大切に学習が、行動化への意欲、態度の育成につなげることができたか」についての考察

セルフエスティームの大切さを取り入れた学習は4時間目に行い、自分や友達の良い所を発見できた生徒は37人中36人であった。事前・事後のアンケートの回答の5段階評価平均値を比べると、「自分のことが好きです」(Q3)の質問については事前の2.5が事後には3.1へ、「自分の事を大切にしています」(Q4)の質問では3.1から3.4へと上昇している。同じく事前・事後アンケートの比較では他の項目(Q5、Q6、Q7、Q8、Q9、Q10)での変化はほとんど見られなかったが、「自分を好きになる」「自分を大切に思う」の項目においては、4時間目のセルフエスティームを高める学習の効果があつたのではないかと考えることができる。

行動化への意欲・態度の育成に関しては、学習カードの「薬物等に手を出してみたいと思いますか?」の問いに対して、36人全員が否定しており、28人は「絶対に思わない」と強く否定している。事前・事後アンケートの比較でも、たばこ・酒・薬物共に、手を出してみたいかの質問(Q15、Q21、Q27)に対して強い否定の回答をしている生徒の数が増えている。このような結果から、本学習を通して、たばこ・酒・薬物に手を出さないといった行動化への意欲・態度の育成は図られたと思われる。

セルフエスティームの高まりが行動化への意欲・態度の育成に直接結び付いたかについては、学習カードの「薬物等に手を出してみたいと思いますか?」の問いの答えの理由と、事前・事後アンケートの「たばこ・酒・薬物に手を出している者はどうすればそういった行動をとらなくなるか」という質問(Q19、Q25、Q31)の回答の中から若干つながるものがあつた。具体的には、学習カードの質問の答えの理由として、自分を大切にすること・周囲の人を悲しませたくないという表現が相当数挙げられていた。事前・事後アンケート(Q19、Q25、Q31)の回答では知識を重視するものが多かったが、自分を大切にすることや、打ち込めるものを持つことを挙げている生徒もいた。

また、事前・事後アンケートでの友達の喫煙・飲酒・薬物乱用への制止に関する質問(Q17、Q23、Q29)では、5段階評価平均値で事前の2.7、2.5、3.5がそれぞれ3.7、3.5、4.3へと上昇し、理由として友達のことを大切に思う表現が挙げられている。ここでは友達を大切に思う気持ちを持つことが、友達の喫煙・飲酒・薬物乱用行為を制止する態度化につながつたと判断できる。

そして、授業後の感想文からは薬物等に手を出さないという強い意志と、その理由として自分や家族等を大切にすることが書かれているものがいくつかあつた。

これらのことから、セルフエスティームの大切さに気づく学習が、薬物等に手を出さないという行動化への意欲・態度の育成につながることができたと考える。

(4) 仮説の有効性について

これまで述べていたように、今回行った学習によって次のことが明らかになった。

ア プレゼンテーションソフトの活用によって、知識・理解度テストの正答率は77.8%~97.2%であった。また、授業がわかりやすいと感じた生徒は100%であった。

イ 薬物標本・薬物乱用経験者の手記の使用や参加型学習によって、薬物等の恐ろしさやそれらが身近な存在であること、また、それらに手を出してしまう要因を自分のこととして捉えた記述を学習カードにした生徒は91.9%であった。

ウ セルフエスティームを大切に学習によって、事後アンケートにおいて自分のことが好きだと答えた生徒は事前と比べ28.7ポイント増加した。またこれらの学習によって、薬物等に手を出したくないという行動化への意欲を表した生徒は100%であった。

これらの結果から、仮説、「プレゼンテーションソフトの活用により、効果的に知識を身に付けさせ、薬物標本・薬物乱用経験者の手記の使用や参加型学習の導入により知識に実感を伴わせ、セルフエスティームを大切に学習を行うことで、行動化への意欲と態度の育成につなげることができる」の有効性が検証できたと判断する。

【 4 】 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 学習の工夫と効果

本研究では、実感を伴う生きた知識を身に付け、セルフエスティームを大切にする学習展開を行った。その結果、行動化の意欲・態度の育成に効果があった。

図4 1は学習計画を進める中で工夫した内容と効果についてまとめたものである。

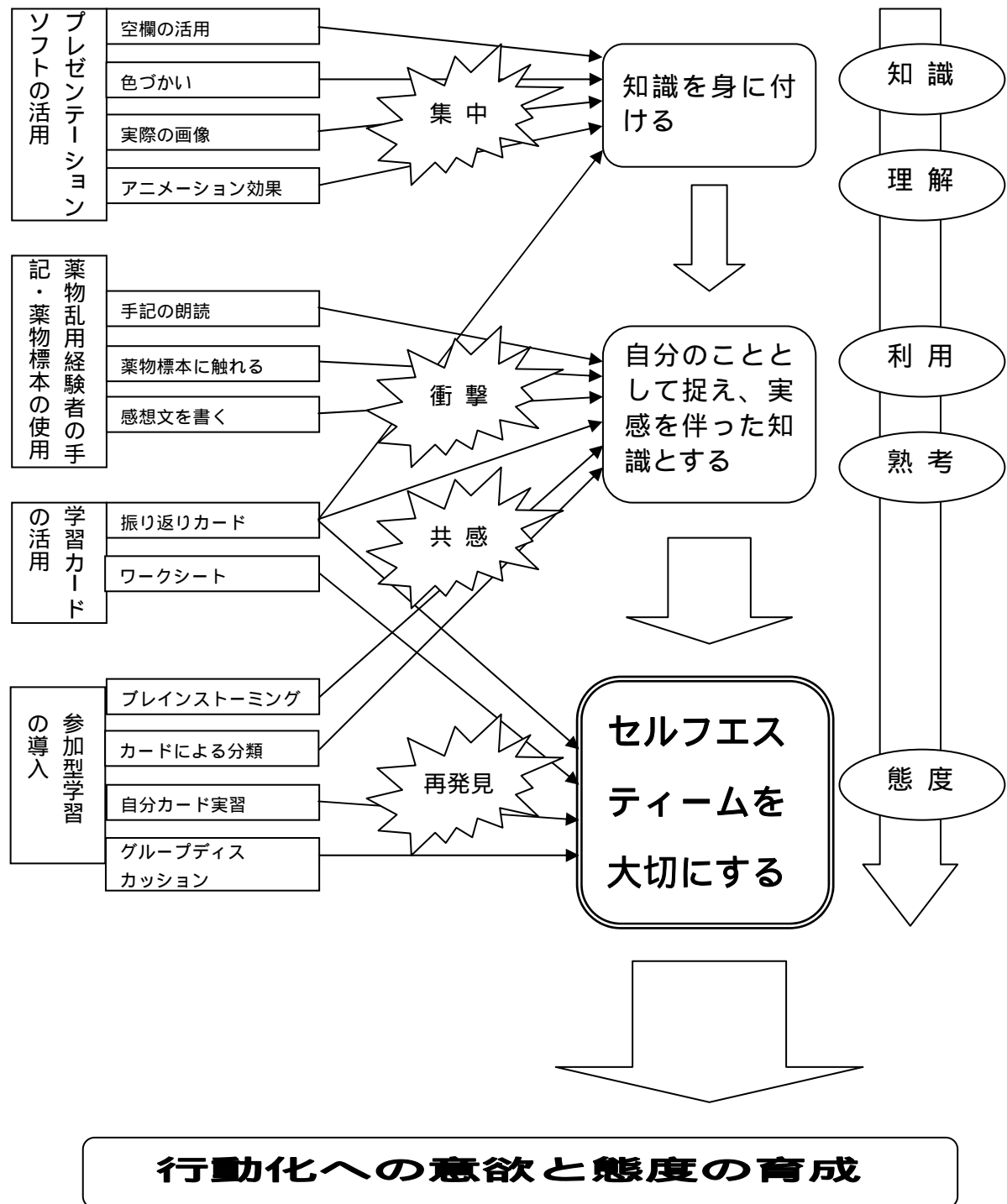


図4 1 学習の工夫と効果の関連

ア 学習過程の工夫

(ア) 知識の定着と実感を伴わせるプロセス

「知識」「理解」から「利用」「熟考」「態度」へとつなげていく流れを踏まえ、まず知識を定着させ、その後に実感を伴わせるという手順を取り入れた。

1時間目及び2時間目の前半に、たばこ・酒・薬物の心身への影響・社会的影響についての知識をしっかりと定着させることを目指した。その後、2時間目の後半及び3時間目に、薬物乱用経験者の手記を読む・薬物標本に触れる・参加型学習を行う等の、学んだ知識に実感を伴わせる取り組みを行った。

知識を得た上で、薬物乱用経験者の手記や薬物標本から受ける衝撃や共感、参加型学習を通しての思考の深まり等によって、学んだ内容を単に知識として、また記憶としてのみにとどめることなく、いわゆる生きた知識へとつなげていくことができたと考える。

(イ) セルフエスティームを大切にしたいプロセス

セルフエスティームについては単元全体を通して触れたが、セルフエスティームを大切にしたい取り組みとしては4時間目に集中して行った。

3時間目までに、たばこ・酒・薬物による影響を知識として学び、特に薬物乱用によって引き起こされる様々な事例や本物同様の薬物標本に接することで衝撃や共感を得、さらに喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけやそれを助長する心理状態や社会環境について思考を深めることにより、知識に実感を伴わせた。その後セルフエスティームを大切にしたい取り組みを行うことで、行動化への意欲と態度の育成を目指した。

セルフエスティームを大切にしたいとの意図であったが、最終的にセルフエスティームの高揚が見られた。

イ 学習の工夫

(ア) プレゼンテーションソフト

見やすく興味を引くスライドを心がけた。文字数を少なくし、字体を大きくすることで、要点がすぐに分かるようにした。実写を含め画像を多く取り入れ、視覚に働きかけることで、より印象に残りやすいスライドとなった。重要な箇所についてはアニメーション効果を用い、強調した。

教室の前面にスクリーンをセットし、教室の照明を落とすことで教室全体の雰囲気も変わるため、生徒はスクリーンに集中することができた。その結果学習意欲も高まり、知識の定着に効果があった。

(イ) 薬物乱用経験者の手記

手記は、薬物乱用によって引き起こされる悲惨さ、本人の後悔の念や周囲の生徒の悲しみなどが表れているものを紹介した。その場での深い読みこなしに重きを置くよりも、まず文面から衝撃を感じてほしいという意図が強かった。

手記を読んで、ほぼ全員が衝撃や驚きを感じ取ることができ、恐ろしさだけではなく、本人の後悔の念や周囲の人の悲しみについても読み取っていた生徒が多かった。

教科書の中での話から、それが実際に起こりうる恐ろしい出来事であるということを理解し、さらに当事者やその周囲の人が直面する悲惨さなども感じ取っていくことで、今までに得た知識を恐ろしさや悲惨さといった実感へとつなげることができた。

(ウ) 薬物標本

薬物乱用経験者の手記を読みながら、それらが引き起こされる直接の引き金となる物とほぼ同様の物に触れることによって、知識・驚きを更に現実的なものとして実感するという意図で、手記を読んだ直後に薬物標本に触れる時間を設定した。

薬物標本については、本物に近いものを手に取って見ることで、恐ろしさだけではなく、お菓子のようであったり身近にありそうな物であったりといった拍子抜けしたような驚きも受けていた。直前に読んだ手記からの悲惨さと、目の前にある物から受け取る印象の差を感じた生徒も多かった。「こんなんで人生が変わってしまうのか？」という感想もあったが、どこにでもありそうな、まさに「お菓子みたいな」錠剤や粉末が、人生を狂わせてしまうことの意外性や驚きも感じ取ることができた生徒もいた。

もし近い将来、彼らが薬物と向かい合うことがあったとしても、一步身を引いて冷静に考えるための知識になったのではないかと考える。

薬物乱用生徒の手記・薬物標本共に、どちらも普段は接することのない話や物であるため、一人ひとりが関心を持って取り組み、知識から実感へとつなげることができた。

(エ) 参加型学習

a ブレインストーミング

意見は直接言うのではなく付箋に書いて貼り、また、他人の意見に対して否定しないというルールがあるため、消極的な生徒でも意見を出しやすい雰囲気であった。次々に意見を出させその数を競わせるといったゲーム的な要素もあり、多くの生徒が積極的に取り組むことができた。

b カードによる分類

教師側で「心の問題」「社会の問題」「その他」とカテゴリー分けをした後、ブレインストーミングで出された付箋をグループに分け貼り直した。

作業をしながら、「俺だったら～」「自分的には～」という会話も飛び交い、思考を促すとともに、自分のことに置き換えて考えることができていた。

c 自分カード実習

自分の良い所・友達の良い所を挙げることからはじめた。自分の良い所をあまり書けない生徒が多かったが、友達の良い所についてはよく書けていた。お互いに書いたものを交換することによって友達から見た自分の良い所を確認でき、自分の良さを再確認したり、再発見することができた。

カードに書く際は、具体的な例を挙げて細かく説明しなくてもよく、大雑把な表現で構わないという姿勢で行った。また、日本語でのコミュニケーションが充分でない外国籍生徒や、過去3時間分の学習ノートの記載状況から、カードにスムーズに書いていくことが困難であろうと予想される生徒が数名いることを考え、教師側で例を挙げてから

取り組んだ。教師側の例として、「元気」「明るい」「優しい」を挙げた。

お互いを書き合ったカードは1人平均7枚で、例も含めた一般的な表現と、「行事で力を発揮する」「運搬係でよく運ぶ」等の日頃の行動面についての表現と、「絵が上手い」「足が速い」といった特技を認めている表現と程よく書かれていた。

生徒の感想には、「自分は良い人じゃん」「優しい、が多かった。なので自分を大切にしていきたいです」というものもあり、自分を見直す機会になった。そこから自分を好きになることの大切さや自分を大切にしていける気持ち、また友達も大切にする気持ちへとつなげていくことができた生徒も多かった。

d グループディスカッション

喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為を助長する心理状態や社会環境にどのように対処したら良いかについて、グループで話し合いをした。同性同士の3～4人の少人数グループを作り行ったので、活発に意見が出た。更に、その土台となるのについての話し合いでは、「心の持ちよう」や「自分を大切に思う気持ち」といった意見が多く出ていた。

(オ) 振り返りカード

毎時間の簡単な振り返りができると、書くことが苦痛にならないことを心がけた。生徒は毎時間よく記入し提出していた。また、質問もよく書いてきた。(表4 1)

表4 1 生徒からの主な質問

1時間目	副流煙の害についてもっと知りたい
	～mgとかあるけど、何が違うの？
2時間目	大和市でも薬物は売られているのでしょうか？
	どうやったらやめさせることができるのか？
3時間目	たばこも酒も薬物もなぜ簡単に手に入ってしまうのか？
	どうやったら強い心になるのでしょうか？
4時間目	もっと他の人からの意見も聞きたい
	自分と他人とどっちを大切にすべきなのでしょうか？
5時間目	薬物をやめようとしている人の心が知りたい
	いろいろな断り方について

(カ) 発問

できるだけ生徒から答えを引き出せるように心がけた。返ってきた答えについては、まず肯定的に受け止めるということを心がけた。その上で、間違っていたり、望ましくなかったりした答えであった場合、話の流れの中で上手く説明するように努めた。自分から発言する場面は少なかったが、指名されると自分の考えを答えていた。

(2) 今後の課題と改善点

課題と改善点を、表4-2のようにまとめた。今回行った取り組みに改善を加え、さらに充実した内容になるよう努めていきたい。

表4-2 課題と改善点

工夫点		課題	改善点
学習過程の工夫	知識の定着と、実感を伴わせるプロセス	様々なプロセスが考えられ、一長一短がある。	・映像等により衝撃を与えた後に知識の定着を図るプロセスも効果的であると考え。特に興味を引きかせる上では有効である。そのようなプロセスの導入を検討する。
	セルフエスティームを大切にしたいプロセス	様々なプロセスが考えられるが、試行錯誤の段階である。	・セルフエスティームを大切にしたい取り組みを最初に行うことや、最後に行うことも、有効であると考え。様々なプロセスを試してみるが、単元全体を通して触れていくことに留意する。
学習の工夫	プレゼンテーションソフトの活用	機能を充分に使いきなすことができなかった。 用意したスライド数が多すぎた。	・スライド作りにおいては、ある程度の経験が必要である。実際に使用してさらに習熟する。 ・作成したスライドを見直して、必要最低限に精選する。 ・ロールプレイを行ったり、Q & A形式での知識・理解度確認テストとして活用できるところまで発展させる。 ・ビデオ等、既存のソフトも有効に活用していくことを考える。
	薬物乱用経験者の手記の使用	活字を読むことが好きではない生徒にとっては苦痛を感じた生徒もいた。	・「手記」だけでなく、音声や映像での紹介も検討する。 ・ビデオ等の既存のソフトの活用や、ダルク等との連携を図り、ゲストティーチャーとして実際に語ってもらうことも検討する。
	薬物標本の使用	数が充分ではなかった。	・2～4人程度に一つ行き渡るくらいの数を用意する。
	参加型学習の導入	<ブレインストーミング> 与えられた時間の最後まで意見を出し続けることが難しい生徒がいた。 <カードによる分類> なかなか話し合いや作業に参加できない生徒がいた。 <自分カード実習> セルフエスティームを高める取り組みをいつ取り入れるべきか。 <グループディスカッション> 発言しやすさを優先し、同性でのグルーピングとした。	・時間に余裕があれば、ウォーミングアップ的に一度他のテーマで練習を行う。 ・グループの人数を3～4人程度の少人数にして取り組む。また、机の配置を考え、紙を中心に全員が等間隔で向き合えるようにする。 ・本研究では4時間目に行ったが、単元の最初に取り入れられたり、均等に配分したりする方法が考えられる。さらに検証を重ね、効果的な取り入れ方を構築していく。 ・男子・女子にこだわらずにグルーピングできるよう工夫する。
	振り返りカードの使用	「感想欄」では、漠然とした記述になってしまう生徒も多かった。	・具体的な振り返りと記述ができるように、項目を整理する。
	発問の工夫	生徒の側から答えを引き出すような発問の工夫が必要であった。	・言葉や表現を変えたりする工夫をする。

2 今後の展望

(1) 保健学習と道德教育等との連携

本研究では保健学習の中で道德的内容を取り入れ、行動化への意欲と態度の育成を目指したが、P12で述べたとおり、教科としての保健学習と道德教育とのすみ分けは必要である。

したがって、単元計画を立てる際は特に評価においては混同することのないようにする必要がある。道德的内容を取り入れる時期については一考を要するところであるが、文部科学省の見解では1単位時間の中で道德と教科学習を合科として行うことは好ましくないとしている。すなわち、中学校では教科として教えるべき内容を1単位時間として時間を取り、しっかりと内容をおさえることが大切であるということである。各教科やその他の活動で教えるべき内容を明確に示すことが求められている現在、北垣は「薬物等の乱用防止教育は、『保健体育』における教科としての学習が中核となり、基礎的知識を身に付けさせ、思考力・判断力等の資質や能力を育成する指導が行われる。また、『道德』『特別活動』『総合的な学習の時間』を活用し、活動や実習等を通じて教科としての学習で身に付けた知識・理解をより深める指導が求められている」と述べている。(中等教育資料平成10年1月号)

今後、道德はもちろん関連教科・特別活動・総合的な学習との望ましい連携の仕方についての研究を深めていきたい。

(2) 保健学習を核とした、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の充実

今回の検証授業で得られた結果を踏まえ、私案として表4-3のように、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育指導計画を立案した。各内容を適時に配列することで、より効果的な防止教育が行えると考ええる。

また、特別活動・道德・総合的な学習の時間と合わせて、総合的・効果的に計画を推進していくためには、中核となる保健学習に必要な知識を定着させ、行動化への意欲と態度をしっかりと育成するとともに、学校の全教員との連携と共通理解を図る必要がある。さらに、生徒理解に努め、生徒の周囲の状況や心の変化を見逃さず、適切な指導・支援をすることで健康で豊かな生活を送る力を身に付けさせたい。

表4-3 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育計画(案)

学 年	1 年	2 年	3 年
保健学習	心身の機能の発達と心の健康 ・精神機能の発達と自己形成 ・欲求やストレスの対処と心の健康 (後期 11月)	健康と環境 ・空気の衛生的管理 (後期 11月)	健康な生活と疾病の予防 ・喫煙・飲酒・薬物乱用と健康 (後期 11月)
関連教科	美術 ・表現 ポスター制作 (喫煙・飲酒・薬物乱用防止) (後期 11月)	家庭科 ・幼児期の生活習慣の形成 幼児が健やかに発達・発育していくためのより良い家庭環境(受動喫煙の影響) (後期 11月) 理科 ・消化と吸収 (アルコールの消化分解) (後期 11月)	社会(公民) ・国民生活と福祉 (喫煙・飲酒・薬物乱用に関する問題点と社会的対策) (後期 11月)
特別活動 (学級活動)	個人及び社会の一員としての在り方 ・たばこや酒の自動販売機について (後期 12月)	健康や安全に関すること ・たばこや酒を勧められたときの断り方 (後期 12月)	健康や安全に関すること ・たばこや酒を勧められたときの断り方 (後期 12月)

特別活動 (学校行事)	保健講話(学校医との連携) ・喫煙・飲酒防止 (後期 11月)	保健講話(警察との連携) ・薬物乱用防止 (後期 11月)	保健講話(ダルク等との連携) ・薬物乱用防止 (後期 10月)
道 徳	1 (1)望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする 3 (2)生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する 4 (2)法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める (後期 10月)	1 (2)より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ 3 (3)人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること喜びを見出すように努める 4 (3)公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める (後期 10月)	1 (5)自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追及する 2 (3)友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う 4 (4)正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める (後期 10月)
総合的な学習の時間	健康などの総合的な課題についての学習活動 (後期 1月)	健康などの総合的な課題についての学習活動 (後期 1月)	健康などの総合的な課題についての学習活動 (後期 1月)

3 おわりに

今回の研究では、保健学習において、知識の定着を図り、知識に実感を伴わせることに重点を置いて授業を行った。保健学習において知識の定着を図ることは最も基本的な役割である。今回、知識の定着を図るためにプレゼンテーションソフトを活用したが、学習した内容を記憶として留めることのみでは、知識が定着したとは言えない。もちろん即時記憶・短期記憶レベルの情報を暗記することも必要であるが、内容を「覚える」に留まらず、「分かる」に至ることが大切である。そして、学ぶべき知識が行動変容に限定された知識のみであると、知識のやせ細りが生じるとの指摘もあり、²⁰⁾ 改めて教えるべき知識の内容を考えていく必要がある。また、知識の定着を図るためには、教材・教具の工夫や、学習資料の工夫等も心がけていく必要があると考える。

しかし、「生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」という保健の目標を実現するためには、知識のみでは充分とは言いきれないことは今回授業を行って改めて感じた。特に「健康な生活と疾病の予防」の内容においては、現代社会では、身に付けた知識を即行動に結び付けたり、あるいは「行動変容」へとつなげたりすることが必要となる場面に向き合うことが大いに考えられる。その場面で望ましい行動を取ることができるかどうかは、必要な知識と同時に、知識を支える気持ちの持ち方、すなわちセルフエスティームに負う部分が大きいと考える。保健学習では知識とともに態度化や行動への意欲といった、いわゆる実践力を養い、保健指導において実践化あるいは望ましい行動変容へと導いていくわけだが、保健学習・保健指導を効果的に行うための土台となるものがセルフエスティームであると捉えている。

平成19年11月に大学ラグビー部員による大麻吸引事件が報道された。大学生は小・中・高等学校において、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育を受けてきているはずである。しかしながら、青少年が安易に反社会的行動に走ったり、あるいは自らを傷つけるような行動をとったりする背景には、社会や世の中に対する不満や不信感と同時に、自分のことを大切に思うことができないといった心理状態もあるのではないかと考えている。あらためて、セルフエスティームの視点を大切にしたい保健学習及び喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育のあり方を模索していきたい。

今回、「喫煙・飲酒・薬物乱用と健康」の単元でセルフエスティームを大切にすることを学んだが、行動化への意欲・態度の育成を効果的に行うという目的と併せて、自分がかげがえのない存在であることや周りの人々から認められていること、そして自分と同じように他人も大切な存在であること、また、たばこ・酒・薬物に手を染めることが自分を大切にしない生き方につながってしまうことと同時に周りの人も悲しませてしまうことを、一人でも多くの生徒に理解して欲しいとの思いがあった。この単元を通してセルフエスティームを大切にすることを学ぶことで、学んだ知識を実践力として身に付け、将来幸せな生き方をすることに結び付けていってもらいたいと考えている。

また、この授業の最後に、「笑顔が大切」というメッセージを生徒に贈った。一人ひとりが幸せな生活を送って欲しいという思いを「笑顔」という言葉で伝えた。授業後の感想文に、「笑顔を大切にしたい」と書いた生徒が何名もいたことは嬉しいことであった。

今後も、知識の定着を図り、実践力を身に付ける保健学習の展開を心がけていきたい。

<引用・参考文献>

- 1) 文部科学省 『中学校学習指導要領 解説 保健体育編』 東山書房 平成 16 年 5 月
- 2) 県立体育センター 『保健学習の指導上の課題に関する研究』 平成 18 年
- 3) 厚生省 『健康日本 21 付録 個人の行動変容に関わる要因としての知識・態度』 平成 12 年
- 4) 和田清 『喫煙・飲酒・薬物乱用の実態と教育における対応』 中等教育資料 平成 16 年 12 月
- 5) 川畑徹朗 『喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育』 体育科教育 2004 年 8 月
- 6) 文部省 『臨時教育審議会答申』 昭和 62 年
- 7) 吉田宝一郎 『小学校体育実践指導全集 10 保健』(株)日本教育図書センター 1991 年
- 8) 神奈川県教育委員会 『養護教諭のハンドブック』 平成 13 年 3 月
- 9) 戸田芳雄 「学校健康教育のイメージ」 平成 16 年度全国都道府県・指定都市教育委員会 学校体育担当指導主事研究協議会 講話『これからの体育科・保健体育科の指導について』 2004 年
- 10) 宮坂忠夫、川田智恵子、吉田享 『健康教育論』、pp.73,88-99,メジカルフレンド 1999 年
- 11) 宮下忠夫 『健康教育・栄養教育』 女子栄養大学出版部 1986 年
- 12) 吉田享 『健康教育理論の展開』 園田恭一、川田智恵子、吉田享 『保健社会学 健康教育・保健行動』 pp18-30 有信堂 1993 年
- 13) 戸田芳雄 「保健（保健領域、保健分野、科目保健）の指導と評価」平成 16 年 6 月
- 14) 戸田芳雄 『初等教育資料』平成 17 年 7 月
- 15) 渡邊正樹 『体育科教育』 2006 年 8 月
- 16) 今関豊一 『保健学習の内容整理の視点』資料（一部） 小・中学校各教科担当指導主事連絡協議会配布資料 平成 19 年 5 月
- 17) 数見隆生 『保健の授業とからだの学習』 農山漁村文化協会 2001 年
- 18) 小倉学 『現代教科教育学体系 8 健康と運動』137 第一法規 1974 年
- 19) 森昭三 『保健教育の目標』 大修館書店 1974 年
- 20) 和唐正勝 『体育科教育』 2007 年 8 月